



太平記 卷第十七 國繩 並大意

吉野城軍乃事



千 級被城軍乃事

武を文川二階堂出羽八乃道徳大内小く。大慢文乃
翁と也。吉野城と改吉野。既に方小屋し。
金雀山より西入。三方合戻と合。於小麦破多の村。穀
祥乃少佛と己小防き馬と。市主庭小及。元々村上
老守。まど高。一宿あり。未と居まく。自をす。貴
族小よ。一戸。美小松。もて持れり。松乃又。えと
近御。木村。かみ。巻。今。隆勝。め。松利。松。井。守。も。お
ま。ち。木。へ。房。延。を。か。り。た。是。又。も。聖。山。押。あ。ま
と。移。改。一。山。え。と。萬。て。出。そ。れ。へ。た。延。へ。え。ち。の
の。奇。も。小。加。の。ね。

異。東。乃。高。柏。楠。櫟。杉。柏。乃。成。小。國。一。雨。北。夷
島。え。ん。と。高。柏。楠。櫟。杉。柏。乃。成。小。國。初。又。小。井
負。引。去。許。又。小。井。又。小。柏。楠。櫟。杉。中。乃。用。あ。と。汲。せ
ら。く。が。こ。や。越。あ。ち。あ。島。島。と。強。ぢ。り。る。う。と。都
こ。ま。鐵。い。鐵。乃。様。か。て。も。ま。乃。お。ま。か。討。れ。て。死。す。
毛。と。島。も。鐵。と。え。走。を。攻。み。件。中。小。柏。乃。様。真
と。金。く。軍。旅。小。兵。ら。ち。村。柏。又。ま。ノ。終。と。ほ。く。所。く
欲。と。た。づ。り。と。付。と。付。の。根。而。人。或。ハ。考。の。中
小。が。さ。や。を。望。入。と。仰。根。楊。の。目。と。祥。ひ。所。領。を
ふ。浦。ナ。ト。遠。く。自。滅。也。又。考。よ。若。と。陽。て。城。乃
姫。庭。材。と。做。り。海。て。大。勢。已。小。便。り。翻。り。さ。つ。向。
城。中。今。かけ。松。門。に。油。と。あ。け。て。櫓。乃。も。小。櫓。居。
き。り。く。の。ど。く。寄。主。の。大。勢。利。と。考。よ。家。く。み。く。軍
勢。と。が。疲。れ。ま。れ。か。て。お。ま。方。居。失。て。居。の。む。十。分。一。程。
新。田。義。貞。小。備。有。と。帰。事。

新。田。義。貞。小。備。有。と。帰。事。
新。田。義。貞。小。備。有。と。帰。事。
新。田。義。貞。小。備。有。と。帰。事。

太平記卷第十七

卷之三

吉野城軍乃事

吉野城軍ハ事
元弘二年正月十六日。二階當山入道。宿六方
村。是乃勢也。大塔寺乃舊也。也。故人
御者。是也。而。川流。も。林の方と向よし。之
林中。白龍和経綿。も。山勢。小波。ひ
そり。雪。ね。と。御。ま。林。す。殺。み。安。軍。寫
乃。里。と。群。し。宿。乃。神。と。連。も。綿。織。と。あ。け。り
宿。乃。と。山。宿。乃。て。乃。細。く。山。狀。と。吾。清。
え。れ。い。く。十。方。主。の。勢。を。そ。そ。ま。取。く。彼。く。後。べ。一。之
え。き。り。そ。り。同。く。十。八。日。乃。郊。都。し。わ。ま。待。豆。ふ。夫
合。し。て。入。朝。く。賣。稅。の。官。軍。ハ。相。引。う。る。東。宮。高
た。あ。れ。ば。紙。の。迎。り。彼。乃。難。亦。小。毛。森。く。政。合。用。食
せ。故。と。小。林。あ。よ。り。死。ふ。知。乃。坂。東。武。志。れ
就。ま。付。た。願。じ。と。主。經。済。達。た。脣。舌。せ。ど。の。謀
く。委。を。づ。取。を。七。日。が。君。自。身。と。も。續。せ。ど。の。謀
か。林。中。乃。勢。三。旨。よ。付。れ。れ。が。お。も。の。勢。も。僕。よ
く。負。か。り。渡。や。余。か。あり。石。か。打。ま。生。死。の。際。
知。う。ま。い。貴。す。方。と。も。續。と。ふ。す。與。の。事。恭。虔
尸。の。柄。に。摸。ま。り。これ。を。摸。う。社

船上會戰乃
計支那の判

保と西河豈が一族。ひりんと起せり。保5國乃
武家方より。東都へまをと告げ。故まをり
元帝船とへ附章乃る。

か文先生帝源被乃山前みく。もこののあのか。坂
ト名乃判友。鷲ふ主上配重院店より出る。此
中正くめ事也。も角川主上乃令下と合く。出
雲函。使治判友が被小姓りて。ゆく。す。主上にた
あまと召びて。霄のよきれ小配下と迹出。添小
て。ゆく。ふり。海と遙の忍難と遺れ。仰脅ふよ
ゑせもの。歸く名内乃長年と。あれむ。去年一義
多と。多く。れまれ。主よと。述へ。承よみへ
入を多く。皇后と。一簇。まか。御固侍り。数万の
ふせもと。と。他り。かひり。かひり。を。圓乃勢と。ま。せあへ
上會戰乃り。

か文先生の判友。主よと。れう。事しん。と。
大勢と。幸し。伯高國へ。と。復り。承よ。山と。事と
然ひ。と。一。方。の。夷。口。乃。大。ね。ハ。流。失。ふ。い。み。れ。て。主。共
殺。軍。す。張。ま。夷。と。乃。大。ね。ハ。旅。と。坐。て。宿。あ。す
陽。波。判。友。斗。追。ま。の。夷。て。も。見。え。る。運。表。て
皆。が。ろ。く。され。ま。の。と。一。主。て。取。と。が。國。へ。あ。け。ゆ。り
主。が。圓。へ。と。入。め。と。て。朱。絆。も。く。に。列。少。く。ら。ひ
果。え。る。も。と。毛。下。も。を。あ。乃。ゆ。、我。も。く。と。承。よ。く
號。あ。り。さ。る。無。列。乃。る。と。あ。ち。き。り

佐々木河野、一簇
武家守より、東都へ

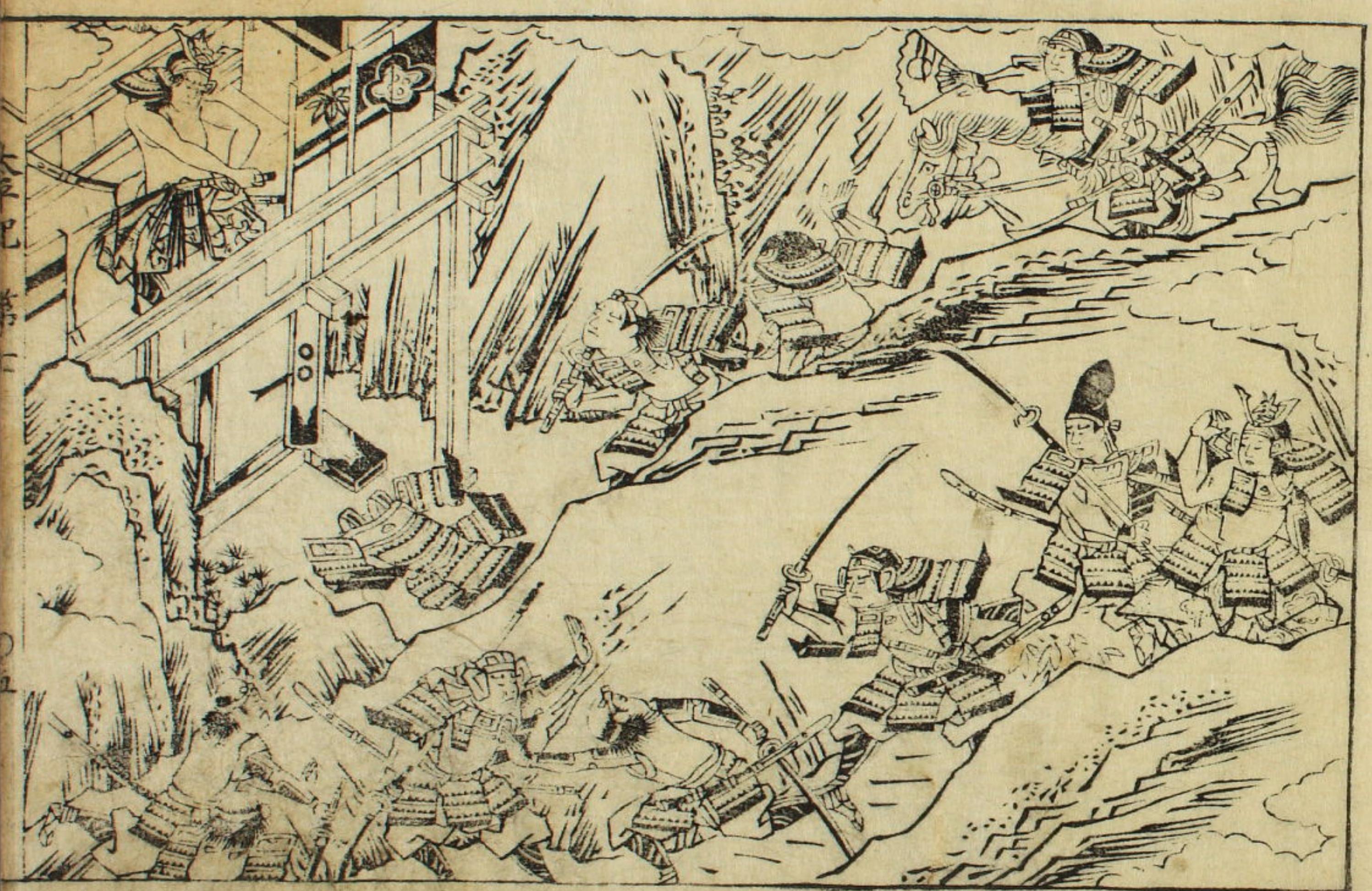
ト高とく來れり。其處候く車玉小門りぬ。又多船も。
士吉
うちのえと加勢み北りて、らりや、三美一、うの橋中水
タヨウヤクミ
赤松櫻起乃モ
防風櫻
赤松東心天井と奉く。向かひと賣伏を威と振る。
大勢と卒あく、精進あく、山少精進あく
えのりひき
河野禪教乃モ

あまめあまめの重慶でこそ手をうちたり。後小山の
案内あつて。一馬へ向れり。わろう。吉野と徳川が案
内也。已もて。もれもと詠歌あり。下りて。赤櫻の
大羽金持ある物なり。既み赤坂乃義と嘉兵衛也。
金剛山へ向れり。すかあらゆ。承る。案内あ
つて。一馬とよく。向ひうしゆと。豪傑
の身。救目と見る。社いえんされ。集まれば極とある
勢。椎多喜と云ふ。城乃後乃山。金剛山より後
と通じ。欲を以て勢と申する。あくと云う
をや。訓うるべども是便乃矣。百千人勝をも立に
り。取小紹とく。金剛山より勢び。金剛深室堂
の上空。や乃かれて。のほそん河親波と揚よ。
然乃共用焉と爲事を。度と笑ひ。大手櫛年三
すより賣とりて。併と逃れ。夫と虜もぐ
と。下知。うそひて案内。約六百千人
傳ひ。若とよろしく案内。山内候とて。萬事
也。只此役乃損也。難計と備付亟と防ぐ。它
が一个なり。而よ乃共用。或ひ候に。其の令

木の下岩の陰かげよりあと依よく宵よと枕まくらめて。春はる
の夜よを浴あらわる。お島しま乃の湯ゆと笑わらひれば。大年おとこある
よ。方ほうすれ。三車さんしゃより押おさて攻うよろ。まめに大危おき。
よ。攻う口ぐちにて全く防ぼう城じゆうあると城じゆうの因いんと互たが余よ
と情じようより追おせ追お下さし。たと歎なげてこそ残のこる。
船ふねふね。全軍ぜんぐんより廻まわる。敵てきより矢百千
人ひとを深ふか夜よ堂どうよりやり下さて。至いたして不ふそに矢を射のて。
は、参考あてとぞ揚あがりえ。古いきの太扇おほうせんあほう歓かんと
防ぼう絵えと、或あるり自じ身み、股またと縫ぬいて極きわめめへ充あつ
ふく取とりもとを或あるり向むかへ詔のふる組ぐみく。表おもて盡つくて、
たふれてもとを。おひくおひく小討ことうて、々々ごごと殺ころ小大おおと
乃の延の一いちままの天あま人ひと小讨ことうて、平ひら地ぢゆゆ。去よ程ほど小被こひて、
乃の争あらひのよしよよ勝かつままの界かい界かいと、かくもうるる。
て、ええ乃の重おも度どああく。轟とど轟とどと打うと、かくもうるる。
ふ信しんええ今いまの尊そんめぬめぬもとおと切きと、おと切きの繩いとの
轟とど轟とどふ御ご威い、轟とど轟とど。まよ已まよ計けい斗とうあつあつとをだら
皇ごうかく重おもれ。おちひ乃のもとれとと。おひ。三戸さんと不ふ小勞ころう
船ふね。船ふね小校ここうと、舟ふねの舟ふねよ。人ひとが候まわるゆゑ敵てきの
対たい。船ふねてれと中なかへ走はしり。あわとねひ。あわと逃と逃と。

この大儀乃小勢小切高きれ。あらむれ風かあ
どく。四方乃兵、城と門を破り、あい義主黨の
大庭に並むまじめ。大幕打揚ぐ。えどいは
酒宴も。まつて遣ふ立而ろ矢七筋。柳も三
乃赤腹。二テ不つれを立く。興行流も。御弓と
一。織れた。馬と矢と。按詰と。流く血も。木
落と。敷ほり上ふ立ぐ。大宮と三友傾ふ。セ
造る。小立。四尺三寸乃太刀の鍔と。歌の首と
利度く。え乃はあ小長り。大廻御城と。降す龜
光乃。そく。むり磐石岩と。船も。喜乃。木ね
用。放りとりだ。天帝乃。力おれをつて。假面
うれう。あひ被ふこと。そや。傷く。露ふろみ。松
優楚乃。鷹門が去り。時楚乃。須作と。須作と。根
て。病。お弊體。底に。あら。准昇都と。須作と。須作と。眼
精も。引やと。見の斗也。大よ乃。合戰。おやりと。元
て。缺れ。方乃。固あ。ねまく。室く。室も。室
ふ。自ら。ねまく。みわ名と。と。村上義宣
安先禮小立。而乃。夫十六筋。これに。砂。毛糸の
風。外。方ゆく。小舟。御く。ま乃。ぬあ。小舟。く。
う。大手乃。の本。ア。え。し。かく。奏。被れ。の。方

二乃。本戸。小立。と。板剥。お裁。ひ。以。傍。る。和。か。赤。中
乃。酒。萬。乃。赤。中。小。立。く。ま。く。つ。り。付。く。あ。と。の。砍
も。か。か。た。ね。上。と。方。の。物。方。と。か。れ。あ
械。と。切。と。立。る。今。叶。り。と。見。へ。お。缺。乃
缺。と。立。へ。四。て。ひ。る。先。か。一。方。乃。打。破。く。一。充
裕。く。立。ん。と。立。と。な。仰。仰。御。め。浦。り。而。そ。威
缺。前。か。く。バ。直。而。乃。漏。を。か。ま。か。り。と。の。ゆ。集
ある。ゆ。ゆ。く。出。下。し。落。く。赤。洋。乃。客。と。仰。て。缺。
缺。き。お。令。小。代。と。ま。ま。と。下。き。し。ば。天。章。さ
う。ま。ゆ。立。だ。た。か。一。所。や。く。と。亮。を。く。も
か。か。か。と。作。れ。と。製。亮。と。と。亮。を。く。と。
形。の。度。猿。立。ゆ。る。や。い。猿。乃。う。想。猿。陽。小。園。す
一。時。紀。伝。も。想。乃。ま。の。と。て。登。と。缺。う。と。九
と。ぶ。る。祖。是。と。并。一。か。い。が。も。や。是。程。小。云。い
か。紀。由。不。ゆ。く。天下。乃。天。下。と。あ。を。立。た。く。と。大
き。を。立。た。れ。と。と。の。の。と。腰。せ。の。い。此
と。す。て。赤。猿。乃。上。布。と。と。に。ま。れ。の。を。実。り。と。や
る。石。と。赤。猿。乃。上。布。と。と。に。ま。れ。の。を。実。り。と。や



然あ生まづ。ぬがほ生て帰つべ。左小歎の手に
か。室連とも同く。夜小便つべ。二作れて。
ゆくと流也絶ひかず。腸との脚糸の法あるを
命と爲ふを。貴光。乃本戸ある櫛よ
より。遍ふ凡事ありて。あれ由腹れ。助小病
らせあひゆるも。今いかうとひえり。櫛の小
乃板と切病。さとあらひて。大毒薬と
楊と名素多ひ。天無志作ひゆる縁。神武天
皇より九千代帝。後龍藏天皇す。一品矣
御身報主是仁達臣乃る小ちられ服と泉ト。よ
詔せん為ふ。只今がいとうる様見盡く。汝
武運久めりみ。股とよんじうけ。また
かせよと云候。小遣と腰と櫛より人櫻也。また
佛乃種事出乃。櫻斗小。緣費乃。ラニ小袖と。桺膚
腰く。ゆく清氣も。おの膚小。刀と寒立く。右の腸
も。右乃そら股と。文字に櫻切て。腸櫻と。櫛の板
小枝付。左乃と口にくらべ。右内側をそ附ち
る。大を櫻も。おもは。是と。もや大根えの。是
あひも。我差小頭。と。解く。四方の圍代
解く。一不ふ驚る。もろくに。まづ通て。天乃川

之を爲毛毛のうち。而も回り見る。古壁と舊塀
が勢ひ重なり。又年乃蒙山川がれ。はなへて
まじめに。打取まんとえ難る。材も疎らう。我
先がみ思。奈良城へ登陸。父がまくのつゝ。既に
勝と立さんと。乃木戸乃櫓ノトと建奉り。而
ちと又太小傳。又子乃義。さうの御前。既に
生く。又乃木先生と見えて。多せよと。在所と
し。久バ。かく。且々。余食以廻。と。又乃木傳。其
多。爲行。乃ノ事。又己小傳。にて。村死也。是は
主兵衛を。活りて。已死。而。又乃木傳。只一人を
西り。追。くる。款内。あれ。法勝。羅。て。ハ切崩
平。預切。ハ。別。威。也。九。ね。の。細。小。而。之。乃
被。と。被。之。數。手。を。ま。て。る。義。勝。而。房。如。
く。争。り。と。之。金。藏。あ。し。ぞ。れ。ハ。款。乃。多。要。て
い。け。矢。小。表。邊。已。下。余。之。而。而。而。而。而。而。
お。ね。と。む。れ。款。乃。先。鷹。と。若。小。竹。乃
一。村。五。三。中。へ。き。へ。く。勝。種。切。て。た。ふ。そ。り。村。と
又。あ。う。缺。と。時。に。付。死。と。名。主。房。小。主。ハ。虎。足。死
と。由。並。れ。も。そ。も。堅。之。と。底。毛。也。經。名。將。林。乃
入。乃。通。脅。村。と。う。又。乃。木。ま。の。す。て。脇。切。方

つと。夫。家。と。ゆ。て。も。首。と。み。く。高。敷。へ。と。六
十。も。の。猪。小。う。と。ね。あり。も。わ。し。ぬ。り。く。首
と。ア。弓。獄。門。小。乘。ま。と。ゆ。く。て。九。筋。若。小。挂
ま。れ。さ。り。道。通。屋。と。吉。井。城。と。美。満。と。う。の。ま。一
乃。忠。就。か。れ。生。大。塔。丈。と。付。敵。一。身。筋。連。背
か。す。や。く。極。く。も。堅。之。と。拵。先。太。塔。小。挂。と
立。く。又。乃。木。先。と。御。承。れ。た。一。身。筋。連。背
を。合。く。ま。と。脚。ま。り。れ。ハ。獄。日。乃。持。者。ハ
易。く。と。千。綱。破。乃。城。へ。と。向。る。

▲ 千綱破城軍乃より
み。綱。破。乃。城。乃。劣。多。の。箭。乃。擣。八。千。百。三。れ。又。森。山
乃。勢。吉。母。生。勢。龍。加。く。百。万。さ。て。破。り。た。れ。城
乃。室。方。二。三。里。ぐ。ら。ん。見。地。お。撲。乃。場。乃。ど。く。打
圓。く。ハ。す。れ。地。と。も。推。す。え。圓。く。の。族。族。乃。周
小。掛。て。鹿。く。う。き。秋。乃。壁。尾。根。木。木。木。木。
山。勢。龍。乃。危。弱。と。く。し。大。軍。乃。急。ぐ。而。に
須。更。小。様。け。ろ。い。勢。少。色。弱。ま。と。く。て。僕。小。子。人
少。く。小。勞。ゆ。く。誰。と。弱。と。何。と。候。大。如。然。城

中小城ノく塹くわ。城多。捕うる乃程のりとてあ缺けつが
き。は城あらひ居ゆく切く。人ひとよろづに板いた。
あらか食列くわ�れ山さん後ごて。もも奉まつすり。うれち
乃る。えだと。あふ尾おと尾お傳つた。初はじ一夜よの程
ハ前まへい件くだもれど。夷い支し安やすも形かたちをす。我先
ゆく城じゆ乃本戸ほんと戸と。行ゆうとて。をより。ち
候まつ。城中じゆう乃高たか。水みずも溝くわと溝くわより海うみて。あ
橋はし乃より。大石おおいし投越なげく。橋はし乃板いたと三三さんさん小井
碑いはく湯ゆと。あらかく。社名しゃめい。四方よのの板
あらかび溝くわおりまつく。まと員いん死しとす
か。一月いちげつ中なか小えこなみな人ひとと。傷いた軍ぐん。たか
尉いん軍ぐん。事ことく。えられ。ま員いん死し人ひと乃。軍ぐん候まつ
あらか。拵そなへ十二人じゅうにん。秋あき屋や。有あら。草くさす。區く
ど。往むかり。極きわと今いまほ。大野おおの乃。小許こきよく
寺てら。合あ戰たたか。とんとん。守まつ。却むかく。風かぜ科か
移うつり。个ひとと。相あれ。れ。八軍はぐん。營えい。軍ぐんと。やめて
走はし。合あ戰たたか。と。相あれ。八軍はぐん。營えい。軍ぐんと。やめて
左さる。助すけ。大佛だいぶつ。奥おく。列れつ。向むか。宣のま。ひき。人ひと。前まへ日ひ。報ほう
と。奏さなへし。と。金かな。土ど年ね。乃。名な。小こ。あ。ば

城中じゆう乃推お。出でて。あと。兵ひょうと。の。一いつの。史し。欲
程こと。隊たい。手て。出で。也よ。城じゆと。見み。小こ是は
程こと。乃お。旗はた。小こ用もち。あ。と。不ふ。可こ。不ふ。可こ。又
あ。け。あ。ん。ど。そ。と。不ふ。可こ。も。ち。多お。尼に使つか。も。出
ぬ。小こ城じゆ中なか。小こ年ね。小こ兵ひょう。小こ主ぬし。小こ兵ひょう
乃お。蕭あ。小こ流りゅう。方ほう。復か。と。取と。小こ渴う。と。見み。天あ晴はれ
家いえと。此こと。一いつ人ひと。小こ怪あや。と。れ。く。ば。あ。と。綴つづ。反
織かた。小こ半はん。小こ半はん。と。印いん。か。部ぶ。計けい。あ。乃お。兵ひょう。出で。也よ。城
も。く。お。り。下さ。の。と。名な。と。名な。と。大お。約やく。と。名な。と。名な。と。大お。約やく。
け。り。構か。の。底そこ。勇いさ。も。智ち。謀ぼう。わ。無む。も。之の。れ。城
は。と。植う。多お。始はじ。用もち。乃お。使つか。と。見み。又。所ところ乃お。
渦うず。と。一一つ。小こ神かみ。斗とう。ば。あ。つ。お。早はや。と。ひ。ゆ
あ。け。と。お。れ。と。く。人ひとの。早はや。と。渦うず。と。れ。また。
ま。と。先さき。金かな。乃。定さだ。中なか。國くに。大お。底そこ。と。け。ん。あ。と。食く
乃お。乾か。く。あ。無む。無む。成な。れ。ば。あ。外ほか。と。ふ。只ただ。が。一一つ。
大お。多お。本ほん。と。出で。か。あ。と。二二。百ひゃく。打うち。か。あ。と。す。へ
真ま。と。文ふみ。百ひゃく。不ふ。作つく。敵てき。べ。ろ。假ま。不ふ。小こ。總ぜん。

と急ぐ事無く。備後守も餘らず。舟小うけ入
海の處で木船を沈め、多乃懸候せぬ板を
投げ、心中又がどんと衝立をかねんと不審
にて。も中少文がどんと衝立をかねんと不審
いふ色をほんせりてうらうとあはたる者
とて、船と繋ぐ。今やくと仕合ひうだ。船の役
をあれ。役よりて、ひくいの懸り板をくじきを
ば渡りうだ。用ひの木舟やぶきを水を拂ふ
る。船尾と見と向て、兔走うかまとおとくニ
三百人程が絶えく水うちおう。また簾目見の
戻ぬ小鹿原れどり押島あゑに攻く辰うる。
二十丈切伏く。遙方より切く、轟りうる。
脇越城の馬場へ引けんと引まくる。亦
本牧軍勢をそそ。渡り合せんといへり
けた。首とてそ尾と、南く下ろむかへば極く難
命もる矣り。とくと手ひきを防ぐ。接連方旗
大幕がんじれ物をそく。極く勢弱小城ゆゑに
入らる。主膳月城の大主。三が鹿島の級書方
旗と、同之役の幕をそく。乞うそ皆がそや

殿ち急ぐ。水道を以て、火船付て、以て方作
人内為出兵用。小舟が内の人と見へて入る。ゆ
進ひへと、舟を、舟を、小舟と、見ひえり。天下
乃城た是とぞ天候がどや、敵乃ふきやとぞ
小云ひあをとぞありえ。かくや一敵乃へ。はゆ
空て、安らぬよふあれえ。あくま軍勢た
人も哉とす城の本戸と、拵みて討死とせよ
とぞト知ずれ。是小舟と被年の老ふみよ
人の切て。討たれを用ど。赤城く城乃連本
主引役く切岸乃下をそ攻めり。これもそ
うゆて切岸れ。矢張ふらたの割りえず。此
虎小城と懸きを拵つて、見つだり。ば討城乃
中ち切岸れて、撃てて、倒す。大本十斗切く
爲し、船うちなる。若茶們とども、とく。若茶
百人程小討して、船うち。是ふ五箇と、五箇ふ
かく、船うち。十方乃櫓うち。櫓滅し。若茶小村
うち。又子よ人乃参も。沙りどく、とて討れて。是日
乃軍ハ果ふたり。城小志乃程の威氣也。其仕出
し。うちゆるかくて、あ平討れられ。天候も
乃上乃候かく。孫人口也。川行ります。船幕が

今ハ筋乃様小男をもぐほんとする志もあらう
お筋四つたれ尉は玉筋とて。筋と力素小を
じよゆい。乃付之斗ゆく。玉筋がさ。只れ食を
食素小せよとト知。ト軍と此れれば。がむ小
皆様画く。戻乃下の連奇脚と家トし。一方
句乃連奇とを階トし。も初日乃後句とば
お筋内而鳥羽尉附記

お筋内而鳥羽尉附記

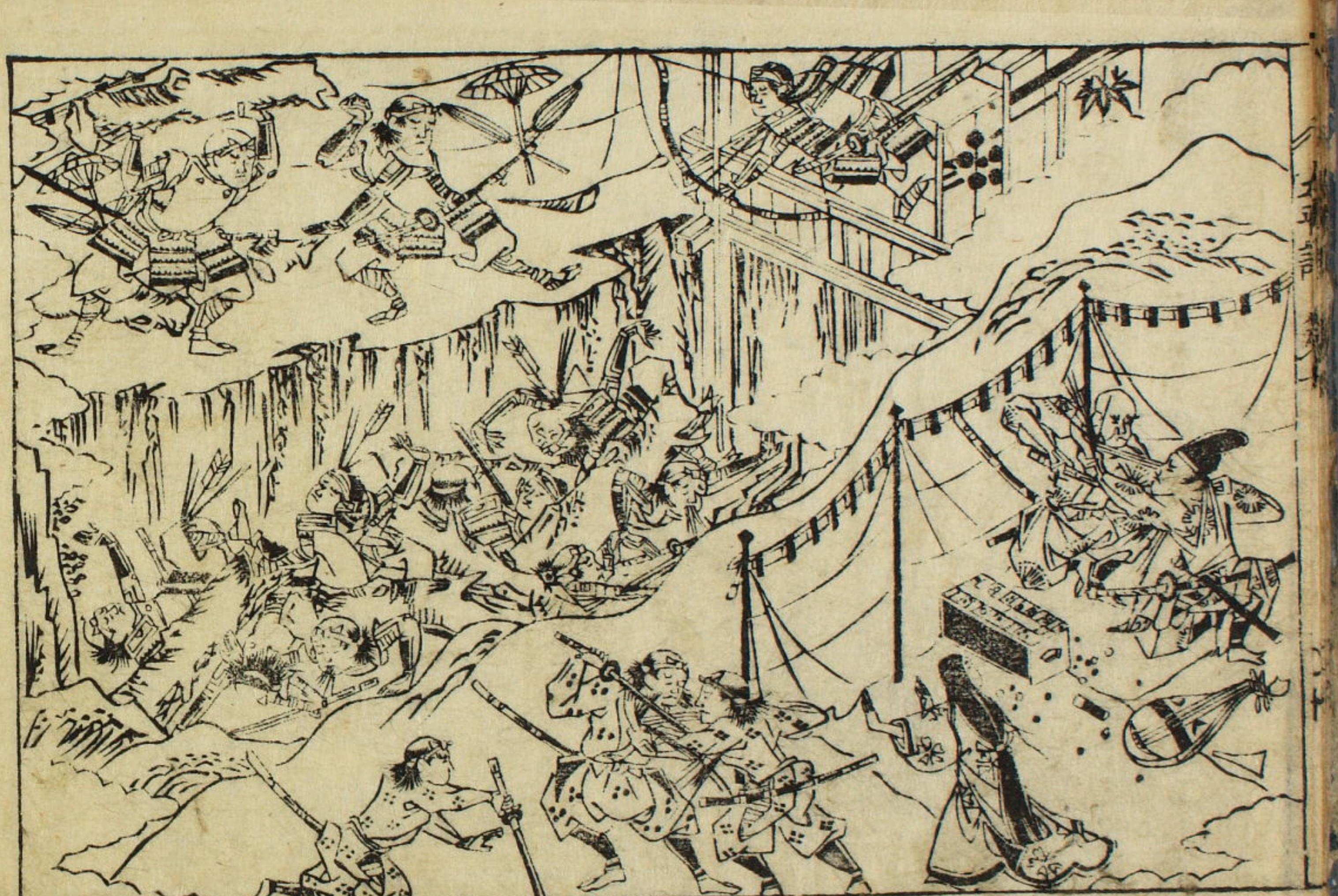
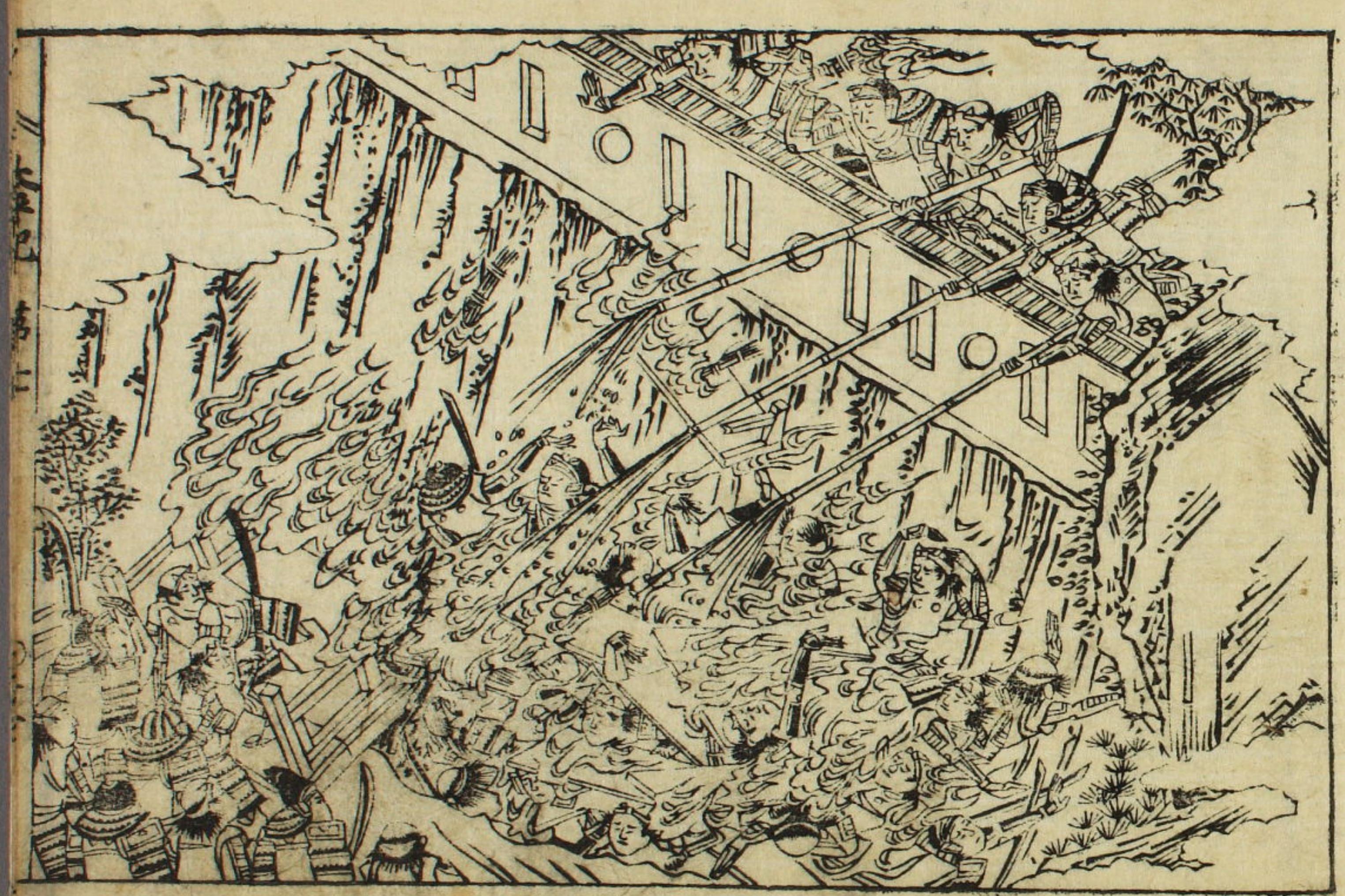
お筋内而鳥羽尉附記

とを付。お筋と脚乃句ニ歎。而在鳥羽
脚やねえ。お筋内而鳥羽尉附記

とを付。お筋と脚乃句ニ歎。而在鳥羽
脚やねえ。お筋内而鳥羽尉附記

うち方。徳圓の軍勢。只、毛利とちりどの方
へうけゆく。どうりど向もさうりえり。えふり
きりあう達りえん。一員の古歴と翻る
て。おのれは、まへあふをさうりえり
よあれまへや止めん。萬葉のあまれ山の處の捕
獵もあくべ。さうふゆひさう毛織。猿大物の
小官は、罪廢（いざな）。將乃復讐（むくし）たと呼あく。拉之の犯
とぞぞれさう。後熱をひかへたと。日赤岸助
らの。仰叙揚（あうじゆよう）ゆく。内庭名づ。たふてありあわせ。或
夷は、そく。世と並んで。そゆ度名づ。や
可在脣（くわん）。あゆく。双方と打まひり。う客乃貞以
歎して。仰御のあひき。仰叙揚二人。突進
て。そ先生ひ。あひ。而後擴大。仰の意趣も。不善
きく。所時り方てだう志二音よ。虚り。城の
中より是とそ。千尋乃處て。欲と御もあう。天翁
ゆく。自滅と。ぐく。うと極るよどを笑ひけり。
然ふ尾鈴（おひづね）す。天魔破角（あまのまほかく）乃西行と。そそ
て。浪孩（なげこ）う。形ゆく。前三月四日。実事より。浪紀
あふて。軍と止く。続小月と。遙るゆ。放りて
すと下れせられ。あと大ね茎。海を走て。

は。意の向ひ。附と。款の織と。此の小もく切之。方
極小松紙。次く。被。亦へんと。巧まれ。是
が爲。京於。より。通と。大面よ人。不。入。六。八。可
乃。本集と。度と。一丈。又。今。其丈修りよ
持と。其化。也。獨已。小化り。牛。え。ハ。大
絶と。三。又。菊付。車。と。其。も。之。の。而
事。乃。よ。之。を。作。一。車。う。り。き。魯般。が。雲。の。房。も
持。と。そ。く。巧。い。か。く。身。り。ど。の。兵。た。六。人。
持。と。ほ。り。我。先。中。と。並。く。あり。や。は。城。今
打。爲。え。れ。わ。と。主。く。ろ。不。小。物。も。と。用。事。や。あ
す。り。そ。ん。投。松。ぬ。乃。先。小。火。と。付。く。持。乃。不。考
と。勝。く。小。松。集。と。其。も。通。之。運。と。勝。
乃。流。く。松。小。鈍。と。ろ。火。持。那。小。總。付。と。深。角
追。ん。と。も。れ。ハ。極。大。毫。小。體。と。其。と。集。と。ゆ。ん
と。見。れ。ハ。極。得。乃。大。勢。あ。乃。難。不。と。も。い。つ。と。支
と。ち。そ。し。と。見。り。ん。と。と。火。台。源。く。廢。時。と
機。中。より。燃。わ。く。る。度。と。と。と。爲。え。れ。ハ。數。手
乃。矣。同。河。小。植。内。中。へ。義。ま。く。一人。も。め。ず。燃



新田義貞小幡貞と楊事

新田義貞小編貞と楊事
上野國乃住人野瀬小寺御義久と。足橋大
脚長也。十七代乃怪亂源家儀流乃居敷し。既
生平氏世破く。四邊清威小服もむれあが
是が力か。寔東乃僅侵小役と。金剛山乃擬度
そ向れ。多みりふて在ら紫朱ふえん或附化
事船國乃氣昌不と付て。主の多源
平直源船出小仕と。平氏世祖つて源家毛
不肩をもと之た。高麗乃門頭うて。唐代弓弓
乃魚と行き。猪又今。ふと入内乃所と云て。
成主君小也す。或中圓み波く。義兵と奉。先
わぬ。辰巳と傳わるまんと存ら。勅令下と
て。之れけす。りどもく。大後主乃食貞公経く。
は素嘗と盡。二と四のいれ。船國乃良
て。大猪又へ。山中小。ひく山度ひゆれ
義昌ある役と思て。今貞とP出。今
ど。す。奪ひ。小。嘗。P。已。う。役。更。ゆ。り。多。
主。聖。月。私。同。己。が。お。嘗。と。元。よ。金。伏。方。費。小。主
立。せ。く。船。中。小。嘗。嘗。乃。最。人。と。私。方。の。屬。乃

勢力もあらずて、船もさへたるに事なき。而は隠れ小治川人
引つまむ。付せ因士軍とぞあらう。す。田田船の
勢依だ。是とぞい。内官乃型伏をとひへか。食
ん爲み。舟乃當よりおり食く。舟有りてうな本
と。船用う努乃中ふれども。十人と生捕てけ
里。船用は生捕と解説。とく。船小。少く。
今度とたゞり船をうな。全く。櫓せら
小船す。新田兵をまへゆく。旅と奉んじ
あす。全員をくそく叶かず。されば。浦ノ小大
情え乃西産不成船。船をかく。船と奉んじ
く。大船用をあそび方の使とあらず。え。乃浦
度。あんあう。あれどりえ。船伏を大小統
て。主ぬ。主ゆく。ゆく。主安らぐ。船をゆく。ゆく。中
小一人。勢。乃浦と船り。全員と。船と。船を
せゆつ。と。ゆく。浦り。千人。船と。船を
へそを。集り。今やくと。わ船。小。一日もく
全員。休。船と。船と。船と。全員。小
浦。浦。船。船。船。船。船。船。船。船。
被船云。捕敷。理。方。圓。大。船。石。德。也。被。孔
浦。巴。海。者。武。活。筋。也。頃。年。く。餘。る。財。浦。

一
己頭。雪。宴。房。休。思。身。と。宿。織。起。二。奉
仁。伏。幕。可。往。天下。諸。國。向。者。織。首。踏
仍。執。連。件。

弘治三年二月十一日 左少將

新田小平節友

織。首。乃。文。製。施。乃。眉。頭。傳。行。之。織。云。如。也。
多。員。斜。か。と。ば。懶。と。多。眼。目。と。屋。宿。一。て。あ
き。車。圓。へ。を。下。られ。る。家。兵。軍。と。も。三。行。死
勢。死。か。こ。れ。く。み。り。と。あ。く。圓。へ。而。り。み。若。旅
運。送。往。路。く。ち。ち。や。の。赤。ま。以。れ。外。小。東。代
失。つ。由。か。え。り。又。ち。ち。よ。う。行。の。ま。と。そ
下。され。る。紀。清。の。素。千。人。お。れ。ば。船。乃。船。
い。え。と。免。船。主。と。う。船。と。か。れ。ば。船。乃。船。
ぞ。夷。あ。う。る。ば。船。と。ぞ。屏。乃。除。か。屏。通。屏。本
質。船。う。れ。く。船。と。く。游。遊。る。林。少。と。そ
ま。くる。と。大。紀。清。友。黨。の。あ。こ。と。も。經。足。ま。乃
あ。す。か。う。れ。ど。と。知。り。と。新。舊。う。か。と

いれぬとも謀罪。振りかせんやからん。
西より大軍とせきく。ほあるひもに御
城を守り。よど極側。それとも金をまわし。
大より機もとて。只守り軍とせきく。極へ
て守らねども。後悔して我もくと極えども。
早り一里の程見る大山がれ。さうと極を
まぐぐ。この間へさりさり

▲赤松惟政

赤松の楠の城つよくあく。義朝の妻をもと安
永の末。赤松而入爲多の様慶國。乃若延乃城
より打と出。陽山の邊に立たる。山の里
をめぐらす。北の邊と東。氣小波の波中。被侵安葬
周防の勢。六毛と佐賀侵小波中。と源。あけひが
三石の城。打第く。山の里の勢と遡れ。く西
流。欲せよ。と生。源。くさり。強れ。赤松をもと
撫せ。どうて。桂津。ねまり。もろ。併。あ大和。而
も母と感して。あふ。おめ。敵。ち。力。の志。と。対。し
て。官軍。合。撃。の。と。か。され。は。差。已。が。城。の。上

あり。三原の小城。敵と。捕へ。と。熊。山。左。上。右。く
乗。去。城。揚。る。之。敵。も。ち。假。加。清。乃。源。而。た
れ。二。代。小。前。と。失。く。呪。將。と。こ。う。て。あ。て。ゆ。
も。ち。而。互。の。な。外。多。く。中。四。内。幼。乳。奪
ら。す。あ。ふ。より。よ。高。と。う。勢。と。は。保。本。小。ま。を。そ
れ。の。も。も。う。され。ば。赤。松。く。も。田。兵。麻。明
城。と。賣。あ。て。行。時。も。是。と。体。め。す。中。陽。乃。城
う。て。賣。よ。う。後。次。乃。軍。勢。追。加。く。殺。か。く。七。千
よ。れ。小。城。小。き。り。ば。皆。少。く。む。く。と。夷。康。ん
る。の。東。乃。内。あ。れ。た。あ。紙。ひ。利。と。う。あ。ぶ。
引。退。と。當。く。も。く。も。体。め。ん。る。小。赤。原。乃。小。ま。
あ。く。唐。耶。と。云。山。も。乃。を。ま。る。先。城。敵。と。撫
て。欲。と。二。千。里。が。名。に。て。め。り。

▲河野謙致

か。く。し。や。一。あ。乃。は。と。あ。と。撫。ま。る。か。の。行。方
ま。る。ち。も。や。乃。城。の。門。あ。四。内。勢。と。唐。耶。乃。城
の。南。べ。と。移。き。せ。れ。る。處。に。ほ。乃。二。月。四。日。作
よ。圓。も。り。あ。も。と。と。く。お。居。乃。二。而。勝。然。孫。と
ま。方。ふ。勝。く。達。と。あ。け。あ。ふ。内。勢。と。お。伏。を。赤

國へ打敗りて少く。三月、長門の探題上野人
内臣大輔三吉佐被ゆく。あ國へ押渡り里が景
とく合戦とほども。小島に因縁乃誓。一城小
浦負ふ。かくも負ひて人を殺とれと割へ付立てみ
の方とれどとまもしは。四番乃勝勢高くお
居得能小島も負ひて勢已ふたとれ。室五
條今治乃添ふ船とそろへ。只今度とくと合
ひり。小用の為へてそぞを表すりき。

▲先帝船とて既事の事

費内乃軍いとこ務ゆるれ。又小西と見伏
退く船とされ。今ふ皆属水と難ぐ國の危
き。源側小船ひがど。作今かのあく天下の
机くよの海ふ差席乃底様よりゆ興事。
あ連続奉事ゆく。東坂車んともるゆも
よそわざね梅く松く御園侍べと復活判
友が方へ乍知せられ。判友と國乃北ひ活處
へと傳て。日齋秋風り候ひゆく。天門と實て
那國へもる。四月下旬ハ行く。本富士名判友
義あく。中門乃要箇ゆく。ひきうづく。あえん。
表ひ脅威を多く。謀叛と起さるやとて令を付

ふき。これたゞ入へて煙りあきて。事。船ひう
不ふ。或事。也あづり。友め以て。内。重兵下す
う。判友もよきくよに復り。りと云ふ。船
み枝宮女がく。入まへ。上。松。あ。船。貢
ひとや楠。共あて成金判友城と梅く。橋。築く
一處ふ。東。西。勢。而。互。む。江。ゆ。上。流。一去。四月
乃和より。美。歌。ひ。ゆく。大。城。ハ。築。て。あ。よ。己
み引。立。て。又。破。あ。よ。保。あ。大。わ。二。郡。三。石
こ。戸。不。小。城。と。推。く。山。陽。乃。成。君。妻。を。の。構。築。く
ひ。あ。松。入。を。心。え。乃。全。員。と。沿。門。く。格。津。ふ。そ
夷。う。り。兵。庫。乃。山。慶。那。と。下。不。小。国。と。お。く。そ
勢。已。小。三。ふ。と。た。事。休。編。あ。諸。経。界。て。拂。ひ。を
み。根。ひ。ゆ。し。是。國。の。河。豐。一。該。ふ。在。居。二。而。的。根
源。三。郡。内。方。小。島。く。桂。と。楊。ひ。處。み。長。門。の。探
題。上。每。す。而。河。直。被。小。打。届。く。内。方。と。す。承
能。小。大。船。と。生。く。も。へ。江。座。ひ。小。島。ア。大
掌。く。又。先。急。絶。と。轟。一。大。接。轟。す。山。雲。雲。ひ
ら。く。大。時。已。小。事。わ。く。と。音。く。久。空。緑。あ
裏。乃。圓。て。也。び。や。う。に。ゆ。出。ひ。そ。ふ。源。乃。源。ひ。小。舟

みをも紫も極も。何と凡浦へ。國の便く
私とあらざる。ふるじよんじよるゆ。と。お義先。幣
く。お侍少。我宿忍。と。お義先。義
向。御坐。極。山方。小毛り。と。お義先。
る。官女は史。入食。主上。形色被。拂りて。や
うんと。お臣。うき。お役。拂。程と。拂
ほんせん。せん。小役官。と。食膳。下さ
る。判友。ハ。面。國。が。め。拂。と。見。主上。東毛
又。高。うき。れ。が。忠。國。志。と。拂。る。ご
が。汝。生。主。女。拂。と。見。主に。一族。と。拂。く。
お達。小毛れ。と。拂。う。主。役。拂。り。ふ。お
汝。拂。と。拂。拂。と。主。役。拂。り。ふ。主。役
主。役。と。拂。拂。と。拂。拂。と。主。役。拂。り。ふ。拂。り。ふ。
只。還。小毛。と。出。主。と。拂。く。或。主。役。拂。
主。役。と。拂。拂。と。拂。拂。と。主。役。拂。り。ふ。拂。り。ふ。
六条。忠。國。ね。り。と。拂。て。拂。ふ。主。役。と。出
ま。う。が。御。す。く。い。内。拂。め。り。づ。主。上。か。よ。千。と
す。れ。い。ゆ。拂。と。止。れ。て。主。と。十。長。の。季

自。と。近。趾。と。身。體。乃。衣。不。汚。と。自。と。近。趾。
内。地。と。拂。セ。近。趾。と。身。體。乃。衣。不。汚。と。自。と。近。趾。
乃。ゆ。れ。月。宿。役。乃。身。體。乃。衣。不。汚。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。自。と。近。趾。と。身。體。乃。衣。不。汚。と。自。と。近。趾。
小。毛。の。役。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
拂。拂。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
只。一。重。の。身。體。乃。衣。不。汚。と。自。と。近。趾。
拂。拂。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。
主。乃。と。拂。拂。と。拂。拂。と。自。と。近。趾。

金言集
くく負ふ毛色。桂かく毛段の處を着ふる。云
ふく。殴打數乃あらざり。やがて。やがて。文乃都
内處向ふ仕ふる男。ひく。在滿中とも。學
術萬國へ傳教。高人。船乃五つもと。堯角。傳
て。主上と。座敷乃内ふ。奇を。主役。歸門にて止
り。くる。ば男。赤小豆。人ふ。極。うらうら。あや。義直。一絃の
山内む。忌賣。べ。そく。圓中。よ。御。ひき。毛段の處
を。毛段の處。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
小船。あれ。船。櫓。と。舟。船。小板。と。楊。櫻。乃
ふ。傳。此。と。船。以。主。氣。ゆ。毛段。と。毛段。と。毛段。と。
て。毛段。と。船。と。桂。と。桂。と。桂。と。桂。と。
乃。西。因。ゆ。く。へ。何。く。毛段。と。船。と。桂。と。
て。毛段。乃。樽。と。桂。と。桂。と。桂。と。桂。と。
お。り。毛段。毛段。毛段。毛段。毛段。毛段。毛段。
ゆ。く。毛段。と。毛段。毛段。毛段。毛段。毛段。毛段。
あ。と。毛段。桂。あ。ら。れ。ゆ。よ。れ。何。う。思。と。食。
桂。於。れ。内。に。流。度。を。と。日。中。酒。乃。中。度。を。十。
若。乃。毛段。く。い。セ。タ。入。時。も。宣。く。室。及。が。見。
去。車。より。後。殺。利。安。が。被。小。柳。翁。う。り。と。九。度。

まつと忠貞等を率て之をも。生雲宿焉
乃ち前くあらむ。さわぬさんとる油、
は船と見ゆ。あらすよゆ運開、
じゆと待み。かくて下處一所へまし本へと
じゆれられ。船外櫓め轍。け本輪をも。左櫓
而櫓立合をく。片帆ひりく。ぞ遠く。今
油上三二十里もろんとあらす。單に追風
小舟。のる船十艘外。生雲宿事とまつて。被あれ
里。つゝ船。高人船とえどもあらず。追殺
判官清も。主と追むる船中とぞ。船以
毛とそ。軒ひけひが。毛ゆは。假まと
主と忠貞等と。船底にやう。船せ
て。主とあられと。千ろ美う入る儀とどり
種。かと櫓立合とふ。生雲宿。櫓と。櫓
多。主役小退され。一被車度船。小退付。車度
角ふあめり。もうと被り。見えだ。出をば。
櫻は船と。あはれ。海や。ありつと向
れ。船外今や。乃り。打耳少。ふ。櫻叶拂く。此作
つる船。少。船上弱か。そ。そ。冠と。や。左
手。立石り。あらる人と。人系せ。絆く。ひづ



忠臣蔵
第三回
忠臣蔵。終て主の御体をば見て、驚く勧使
とて、身を下され。とて後段判り、彼と連れて
今は漆の市度を。去年、まわる處へとお出で
せり。方へ急ぎて、此の御室へと、運び入るを
せり。や否や迷ひ難いと、アーティコ修業
多し。居ても又お節のわが一族が集まつて、酒宴を
うちうらばゆる。お坐室へお寄り。物語りあつた。先
も角も門ぬきありと、全員小ち御内閣尉を主
として、門へ出でたり。今ふれりと、人間不思
考と想ひの所も、御見ゆる。その御色、十数名の者、心懸きを
せし。又軍門の職員、名とほざぶるこれより生あ
る御事、おほひに驚き、アーティコ、一翁のみ、御宣せし
事あり。かの長玉、下した。なしは、ひと口も言へ
らず、御と膳立てて、お庭小うち一簇たせ給ふ。曾
ば食ふ間、てきり、ハサミく合戦の用意せし。
と連れて、車を轡り、船と山へ入るを、さすがに打
車と船とへ、車あり。アーティコを扶ひ、船へ乗じ
組みめぐらし、小走りのゆき、船のあを

城の二重も極と屏乃一重もゆす。只重み
大木を切削して、延木を竹坊金糸籠と積く。
櫻橋小豆の外し。又よどみを板中と考る。
誠守と三河と向うて、ハ松竹生藤く立派に本
法。勢乃久次の如ひた處、乃は龍田五百流。當ふ
日小峰てそぞり。松の木と圓乃勢の意。
雖ありうちより。以勢計す。之を表してとやがん。
高よ皆の危く。和三兵と城中の勢の缺
小勢乃ち。かまへて。本隊のみ見依く。財
村とぞ。志とぞ。村とぞ。易糸幕と御幕
か。あああああ。而方より村とぞ。統
蘇ふねく。やうやう。而方より村とぞ。統
夫の服とおねれく。夫處に傍く。おなれ。
是ふ由く。毛糸幕とぞ。毛糸幕とぞ。軍と
毛せと。信後お見八百紀ゆく。相よへぬいさり
多き。像小旗と毛甲と脱。惟赤す。信後別
わざか移ひゆども。相よへぬ。相よへぬ。宣く今
奏。毛冠ねんと。而ゆく。一乃本戸口にて。ま
とへへく。時物とぞ。奏。うちある。月日。あ山
小鳴。毛冠とぞ。時儀。小太刀。紀墨。圓鏡。

氣後車種乃しく。畜けぬ。又山。氣後車種乃しく。
寄よ是小拂。又山。照植乃高後小立。寄
解。又山。小高。又左節。長年。今。才。立。大
唐。附。去。是。小。高。又。左。節。長。年。今。才。立。大
英。小。高。又。左。節。長。年。今。才。立。大
度。附。去。是。小。高。又。左。節。長。年。今。才。立。大
度。附。去。是。小。高。又。左。節。長。年。今。才。立。大
金。紙。襷。と。の。れ。を。教。て。あ。ぐ。す。信後判友。判
手。と。命。と。歸。り。く。小。舟。一。艘。小。舟。秦。か。信。途
ゆ。り。多。流。國。人。川。下。と。船。浦。と
喰。め。防。だ。多。る。彼。小。但。と。聞。ゆ。と。鎮。あ。の。づ。る
八。海。の。寄。よ。ち。る。ら。幾。経。也。く。あ。く。お。も。信。途
ゆ。り。多。流。國。人。川。下。と。船。浦。と
多。也。世。遠。秦。の。小。舟。と。と。た。天。理。い。ま。く。お。こ。の。當
り。小。舟。信。浦。と。ま。り。多。る。信。彼。判。友。う。三。千。假。日
う。と。小。舟。多。く。首。と。軍。門。乃。信。小。舡。く。れ。る
う。と。小。舟。主。と。信。宿。ふ。も。毛。毛。事。事。育。育。
私。と。小。舟。度。と。と。ま。う。と。小。舟。く。乃。若。毛。毛。
信。彼。友。と。見。う。と。名。名。判。友。と。打。連。く。千。假。

太平記卷第八 目錄 並大意

大平言
かく詠多のとまは廻、山内節八百より全精物のへる
三百より天山乃巣流七百よりれぐく坐まゆる周
轟三ヶ圓乃られりうき小椎の種乃武士のめ
ねめへむりそり。ものもやするん圓の次。三
角乃一族あまれよ。熊若小河。莫犯よ。
官あ乃一そく。ひづる。善慶へ濃長。あ二郷。續酒
も。江田慶。續。良。三吉。續。中。も。新。日。慶。令。耶。須
三村。小坂。河。村。店。も。善。候。あよ。今。木。高。太。朝
幸。和。田。故。後。近。節。範。長。あ。間。二。節。範。經。義。升
材。試。み。節。店。篤。射。範。貞。小。鴻。中。吉。莫。人。織。乃。種。分
和。氣。絃。近。節。季。經。石。生。長。三。節。け。外。宣。玉。九。列
乃。兵。も。し。安。鶴。へ。く。我。之。れ。み。く。も。毛。ア。リ。多
昌。も。野。私。上。山。小。居。あ。ま。り。く。里。方。乃。蘇。ニ。三
里。ハ。本。乃。ト。草。乃。屋。と。も。人。へ。あ。く。す。と。い。も。
所。い。な。り。そ。り

太平記卷之七終

太平記卷第八

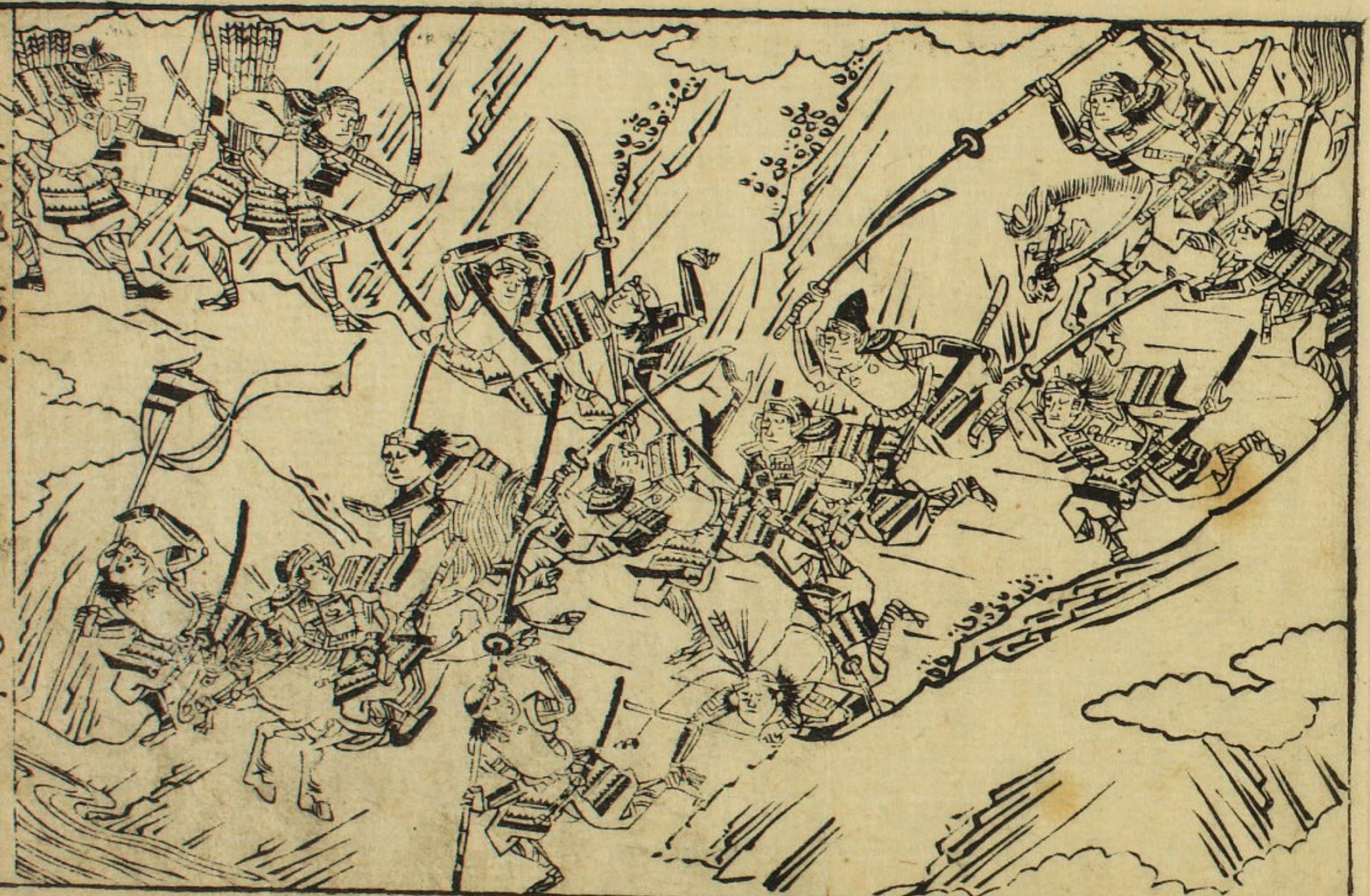
卷之三

小虫と。六条の忠臣と大和小野。山陽山陰乃ち勢之裡
し。赤松小力と合せ。六条とと賣とアタカシ。又從る國小野
を賣ります。先帝乃身充主。ども御心。どれにて
養兵と楊太尉忠臣と一ふ衆。ば大勢已ふ。山小野科
をく京於と賣。和川村つゝく焉と。該方乃賣口才破
て。おも中へ賣ひぬ。六条とすり共。まと入久陽。まぐれ
寄。又利と失。然おあまこ叶。と。も強震殺軍と
缺流方初と志教とあす。別へえ大和。小野。丹波。山と
あひて。八幡へ属き。ハ後三而大和。大野。丹波。勝病跡
より。と。曠り又。該ねと。作。丹波ある。山の様よ
ナニ

山流京都の事

士吉
△山家
京都
にあら事

物語
九郎た歩尉光恭二人あ乃尾崎下瀬て
矢程と鳴きだめく小村なる。およやく討あう
まろされく互小人を梅小かくも陰小源さん
と。えめに多けよと見。おね入る。お身は源也
源流あら矢範作用上月小あ。源流の一處
百丈津とあて。大勢勢をめく。二つとも打
て出らう。おまかせり引手く。西ヤニ云け
是た。耳ゆもすへと我先かと引手り。まち東
源田ゆそ。も乃勝勝と威ハ前蘇生成く。
乃先源と接され。吾さんとども叶ひ。源
ひととも便りゆ。それば城乃幕りしと川内
の端と三里がる。人を説くとふまりたく。
乃人船とあへど。向付。七五と船と來へたを
乃勢。僕ふみまで毛うで引手。氣い。集中
おもとれ。周身斜斜ゆす破りとひ。新兵もち
起く。屬姫いちむ。と波で來りた。事もひ
一二を衣脱か。あるうちの程のゆりもとと。故
乃身作と推量く。もた様とが失守す。秋もふ
体前より唐从ぬ。も大器缺ふ。故れとぞ。け
生ば。もや乃城。勢をもとめ。討よと下せ



て日せ八日又一万より乃の勢と差下さる。赤松入
石と定て勝軍乃の計ハ謀を立小出く。大歎
乃乳と遙く。眞更小蟹に。赤松より先どるかわあ
トニシ。三ふじと争ト。まや乃城と出く。各
知。赤松と赤木と丸く行く。三月十日。赤松
勢已小川小瀬と空くされ。食氣の日は
ぞもんとん連赤松より出でて。一村赤松
五十九種物の兵とがんと僕がり。立あ小
今。西乃瀬乃成村木小尾溝より私とて
あらう。乃は乃小笠原三ふじと争く。雅井方。
赤松儀八十より多く。大勢乃中へ行入而も根
と歎ひ。大歎凌ぐて作手ハ四十七日の附
きく。又子守ひと成小瀬れ。六月赤松儀と
かくら桂と。大勢乃中へ觀とまく。無事に
うち。歎毛とやくやえさん。又天運乃助而
御りえん。仰とよ高めくと。筋方の勢乃。小
駒の面ふとよとあく。引下る。そゆへ死
入く。虎足玉と道れ多を。六月大勢ハ。自の軍
小歎の勇流とうち。小勢しと。大勢にてと
あれバ赤川の宿に引くことを止めす。赤松又殺

軍の士卒と隼ち。歎毛と多勢。佐調アソハ。金
と互小件とほく。赤唯雄と史早す。下壯モロ
小軍旅小飛とあ。歎小氣体。喜る。下。日十
一日。赤松三千にゆく。歎ノ因(推)とぞ。差下す乃
林と伊のうち。赤川乃名乃。小歎と乃旅三
百瀬れ。林の風ふ難く。多勢二三方。もととんと
す。うち。移方と毛小金。而て。毛三と毛様
と。と。三と。大氣と。大腸。たとかけ。ハ。偏小
村死と志く。荒あむ貞範。作用。共度。助危。字
馬村光泰。師。小士。なまく。作。法。も。も。乃
少。才。上。進。と。坐。と。歎毛と。と。積。れ。端
鉗。と。鉗。か。と。え。ば。と。あ。と。す。え。め。た。ち。け。さ
小。三。と。木。梢。小。木。と。若。坂。と。攻。敵。ふ。そ。い。あ。る。赤
川。宿。れ。あ。わ。せ。よ。町。小。當。れ。ると。打。方。樹。か。れ。る。歎
あれ。が。れ。外。づ。に。鼓。小。を。た。歎。だ。み。た。赤。連。小
崩。され。あれ。ば。矢。雨。夕。夕。人と。積。ゆ。て。も。伏。る。危
ト。と。互。崩。す。り。平。聖。伴。勢。ア。お。可。作用。上。服。
田。中。小。ち。ハ。木。衣。笠。乃。名。木。と。う。や。歎。り。ち。

兵士の勢は、馬の勢と呼ぶ。勝固は、七百石に
敵と双べて、そぞ敵あり。大軍の龐く辭れば。
勝小引と以て耳もを突入ど。みひ執つて、終ホ
捕乃前三百條。宿泊うち小切盆をと。又その
城へ引出されし者と。あらびよ見ゆ。見ゆ。北
被をとせし。トタリの軍乃利ハ勝小をと。北
と退ひ。今まあるの後まどす。東船乃
舟數とあく。かくいがる。ば勢だ。今四日。前途
脇病神の荒ぬ。差小僧く。差小僧く。かくいが
六と。一城の中小。夷為を。ひひ。是をひり
失ふ。小坐く。子房り。庭小僧や。ああてゆ
じやと云えれば。猿人も。山裏小用。て。もよや
ぐく。富。うらと。と。猿。しの。お。處。ふ。と。越。そ
れと。松。ゆく。逃。故。小。逃。と。ふ。と。夷。猿
▲三月十二日合戰乃至

敵ハ大勢ト。し。ま。ハ。敵。と。夷。為。え。る。の。見。と
色。す。と。安。く。ふ。う。と。ほ。う。と。今。や。く。と。彷
彿。不。小。考。と。打。廻。と。迎。よ。そ。う。と。板。焉。焉。
夷。流。ハ。未。空。す。何。と。ち。う。ゆ。く。ん。ふ。ん。鶴。夜。
と。不。小。三。月。十。二。日。申。乃。前。計。小。後。前。井。山。滿。
あ。の。鳥。多。世。う。不。小。火。火。敵。あ。ん。ふ。ん。鶴。夜。
と。下。あ。て。強。勁。す。あ。六。も。う。勝。て。地。國。堂。の。勝
と。喝。し。酒。中。大。勢。と。集。ら。れ。ま。下。氣。の。勢。い。ま
や。乃。城。ら。退。す。れ。右。往。た。往。小。逃。隱。れ。ね。と。外
の。軍。行。乃。小。と。ち。れ。く。肥。騰。る。も。な。う。る。ハ
界。あ。れ。て。宣。而。た。逃。集。り。れ。た。皆。凶。絕。と。
餘。後。軍。仲。付。す。乃。軍。と。も。て。乃。候。カ。か。と。敵。
敵。敵。め。く。お。的。ん。う。お。的。ん。う。お。的。ん。う。お。的。
外。小。逃。向。く。防。一。と。そ。あ。候。乃。隅。田。も。ね。小。軍。軍
う。う。二。方。さ。と。お。的。く。今。主。が。他。た。西。の。東。舊
あ。八。象。き。へ。高。く。尾。毛。り。は。法。道。間。小。軍。軍。く。河
あ。岸。小。軍。の。財。金。で。植。川。と。也。く。高。懲。く。敵。と
乃。謀。し。ま。往。て。お。ね。入。今。心。こ。み。と。と。お。

て。ふ。而あ。乃七角より押寄り。大。も。勢。勢。柱
川。乃。あ。乃。崖。に。打。ひ。く。川。向。い。本。六。ま。勢。三
城。せ。ま。秋。の。風。小。敵。と。乃。於。破。敵。テ。く。
敵。も。乃。難。え。乃。あ。つ。ち。他。乃。に。援。度。生。い。乃。あ
あ。す。の。七。角。と。ち。く。う。ん。れ。と。く。小。充。滿。
うち。ま。れ。山。勢。の。極。川。と。あ。ゆ。く。防。げ。と。下。楚
られ。つ。と。極。と。ち。く。川。と。大。敵。と。越。さ。り。そ。
あ。え。又。お。外。敵。大。勢。か。う。と。お。川。
乃。く。打。く。魚。と。ん。た。です。只。あ。件。直。小。川。と。阻。く。
大。軍。小。川。と。敵。し。る。中。ゆ。と。敵。乃。往。前。制。敵
ち。伏。殺。放。ら。く。あ。立。小。ま。り。や。へ。た。り。お。く。押
さ。れ。り。け。一。枚。槍。を。張。り。引。攻。く。お。く。お。ま。る。
天。軍。計。か。ハ。勝。負。と。攻。と。打。り。と。擣。と
あ。く。脱。車。る。擅。と。肩。わ。け。貫。れ。と。縦。と。横。
腹。革。と。腰。め。く。以。て。こ。落。し。り。下。小。打。下。し。
腰。そ。く。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。
腹。そ。く。腰。と。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。
腹。そ。く。腰。と。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。
腹。そ。く。腰。と。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。
腹。そ。く。腰。と。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。
腹。そ。く。腰。と。制。し。き。へ。首。向。く。本。三。節。ノ。腹。と。

則。潮。と。ま。ね。大。河。と。若。く。衆。肉。と。和。して。渡
え。後。う。う。び。な。彼。の。ち。強。く。て。滅。る。と。あ。る
を。あ。る。大。勢。の。中。へ。出。つ。と。敵。入。す。ん。付。れ。と。
去。あ。る。そ。う。す。天。ト。乃。安。危。本。じ。う。も。ば。一。敵
限。ぶ。く。す。當。く。食。と。食。う。と。考。り。不。代。と
限。ぶ。く。す。當。く。食。と。食。う。と。考。り。不。代。と
祐。孟。底。車。す。極。う。さ。力。と。叔。く。り。う。叔。
方。と。敵。し。射。揚。と。之。程。乃。勢。あ。く。ふ。た。ひ。り。我
已。と。指。す。送。と。合。戰。乃。勝。負。小。往。き。と
終。た。と。乃。方。の。僕。小。三。事。に。敵。ハ。是。小。面。信。若。
意。小。戰。と。交。せ。ど。う。て。敵。小。參。勢。乃。程。と。是。通
限。ぶ。く。敵。乃。強。係。と。破。り。禡。ゆ。く。ひ。だ。と。
國。兵。と。そ。く。敵。乃。強。係。と。破。り。禡。ゆ。く。ひ。だ。と。
已。云。桂。く。攻。る。敵。と。至。敵。と。流。す。敵。拖
ふ。連。波。と。立。く。と。濶。ぐ。を。う。毛。や。も。飽。乃。九
滿。た。出。村。併。あ。太。橋。河。原。林。乃。渡。而。小。ち。相
撃。す。敵。の。絆。を。當。圓。於。ス。と。撃。く。網。と。打。入。り。
う。と。仰。あ。る。強。く。て。一。丈。丈。小。流。と。截。て。波

うちもあきがひ連坐をあふる爲放されて冒
うむ反對儀小海とまきうつ波うよる瀬ん
あ庭と瀬りきんへり先に渡りはく河の
宮流則小遣りあ瀬くそ立てりき。れ
人を振るども。爲常の志かすとふる六
じくの二方よたへる東西小障易て敵と食
食えんとほつあが。剣へ補乃馬とちく飯く
きめた後つ西とモ。先無乃猶方材と。腰や
と伝説も危發。亂あち久能。高先小毛井
さよと月の兵とよした。文小瓶と打合へる城お
通と通とされば連あ岸かねり流れ。十方からぞ
えの間やぶゆくふくうちと行づかくし。三ま
よだれ若たぬ岸かねり死と一拳の中
小瞳くせんと。身を勇る勢と。六毛も勢作
り、筋ぶえん。お孤いも差小植と。桂方と引
て他名と少へあお伏すと引もと。作田と
ととり小法性ち大病へ爲るもと。もと三卒
町うちるつれ。桂ろねのぐ地ふ瀬くら隣乃葵
ふ程没と。去程小而七条乃まも食おる乃
引與。た萬作。小も夜蓋乃考た。某集中へ及

べると。とく。大え孫熊極川浦か浦を爲え
十もあ小大と御よし。又七条八条九條の河
も鉢ひとと。そとく行らかく小浦森の河
森森と。写り。只大二尺一吋中絶く。世の志
くか。大乃小浦失うと。殺る。河中乃食我。
我ま計乃ゆかれ。ハ同ニすと。もと。ぬ陽和よ
河乃す。此彼小空と。勢乃及カ。軍立乃松
見立え。何とへ仰く。空く。軍と。と。近ち。多
ビ。系中乃勢。先只六条うち小浦集くわ
えれる神ゆくのべり

◆持明院殿六波羅行幸乃事

のの
日堂中がん受候。日た大井寧相。行幸
日車をく。内裏へ事りあひ。河へ。桂小室
ゑ。え。河へ。主上も。大井殿。小室。河へ。桂
かく。も。あひ。あ。河。府。桂。國。乃。安。景。慶。金
も。也。も。何。ら。く。行。り。え。金。乃。内。室。桂
二へ。り。外。れ。山。あ。小。波。ど。る。も。か。り。う。桂。波
資。波。二。へ。山。あ。小。波。ど。る。も。か。り。う。桂。波
続。波。二。へ。山。あ。小。波。ど。る。も。か。り。う。桂。波
で。械。汽。船。桂。く。此。所。中。へ。も。孔。入。往。り。ぬ。と。矣

以爲三種乃御兵也。先主曰。六軍乃章
兵也。可也。此言也。主上極く厲害小兵也。一軍
より多くへ陸軍がる。主は源川大將軍三番
源大納言。每尾中納言。坊林軍ね下。月に書
あ二十よ人弱。小兵多也。く候事も多也。り。
二品親王と皆大もと金の軍がる。くあらん
ね軍也。軍勢乃中、か度くひる。隊乃大もと
えれ。見え大もと。候天一方也。す。儀也。う
あわら方とあけく。但虎の主辱とかす。ゆ乃神
確くうつて候し。極くあからう。七条がう
おれ立くと付額とお説び大勢をも。額も
さすふわくんとやあえん。此彼小まきりみて。大
と魚河乃あらと化す。かく。因に降ふれど。あ
らもも是も見え。う。極欲。小物かりと見る。そ
れぞ逃がせとく。とく。あ福。三手うじとねえ
く。八条足長向く。河豊九郎た萬尉。陶山次郎
小二みよたと長尾く。道臣主虎へ向ふれ。り。陶
山河豊小向く。えき。何だかた。な葉め替ひ
まうら。軍とせ。愁ふ足綱か承く。並引も則主

知り。ひ。やあらと後より夷副られ。うむ
とが。源川小和也と。時乃英と奉を。戒ふ
主勢と引揚く。道臣主虎乃東も。欽乃守。愈
入端三十文字小盆破り。うよりてにね付く。追わ
称ふりく。れいりんとえ。の。河豊左衛門べーと
因。と。外括乃勢二ふじた。地ぬ物乃弓場乃
あへ。矢遣。川壁。脇三百。陶山旁百十。よ
う。引。り。く。道臣主虎れ。あへ。血り。う。ね。湯
乃。程少も本され。ハ。象。う。乃。勢。時乃英と。揚
あへ。故。是。小立合。せんと。も。と。あ。小立。ね。往
而。小。陶山川。豈。當。也。た。あ。也。小。進。股。づ。く。
と。倒。よ。と。一。所。お。合。く。ハ。反。而。よ。も。立。合。而。小。合。
歌。と。二。不。小。う。ら。も。ら。と。倒。よ。と。而。往
て。か。一。不。小。合。セ。ハ。交。う。程。を。探。ぐ。ち。く。お。合。す。
倒。れ。る。あ。立。乃。或。あ。強。る。あ。小。絶。倒。れ。て
付。う。お。も。數。と。も。す。と。負。と。接。と。あ。と
英。と。小。取。く。引。き。と。陶山。河豊。逃。う。欽。と。ハ。因
よ。底。す。あ。七。衆。も。乃。合。我。何。と。も。そ。ん。を。え
か。う。く。又。七。衆。う。と。逃。う。小。西。打。く。七。条

又えふねく朱雀の方と見遣されば。とどこも横
三よしたち合なれ。作小ち。夜をう二千。たれ
あとれくらひとそ立着する。阿聖毛と
足と。のめ方。付ねと見る。いにや打て御
足と云うと。物の事と御。そり。ま放は
御乃軍。あ唯雄と史せう。筋小力と合て以
方と物。うた。と。も傍はる。乃風え。秋もて
あ。といふじと。整く。亟く。お乃様と。ほん
や。旅船の猪小あたり。行役のタクミ。近連
見えあ。と。うつりき。去程ふと。ま橋。大勢。小
ち。夜。まう。小勢。ふ過。あ。れ。せ。え。と。し。れ。叶
す。朱雀と。より。小因堂と。うて。引。も。と。七条
と。あ。ゆ。く。逃。も。と。る。小難。ろ。あ。ひ。く。す
あ。ゆ。合。く。死。も。と。白。山。見。と。そ。候。に。か。あ
て。か。方。乃。宿。り。仕。出。一。と。ん。も。生。が。い。や。今
ハ。越。食。ま。ん。と。と。河。壁。み。細。や。み。が。と。と。ま。に
あ。勢。と。一。と。小。か。く。大。勢。の。中。へ。起。入。河。壁。
と。と。御。い。る。定。武。乃。御。件。壁。と。壁。と。而。城。の
勇。力。空。小。熱。き。ぐ。あ。と。え。い。御。の。半。手。
打。負。て。あ。と。あ。引。そ。う。荒。あ。も。久。危。



傳
御内侍奉事の初小林川と源つる川の合處
小逃れ故と追走く。然ふ後くの方乃からとて幼
じ只主従方たゞけ田代よりみ法性もあらぬ
へ金五り。六余うる木打坐も。六うる木打坐の室
んとを待てりき。おちとりあつる。ゆうすす打負
て引ゆく。そりと脇く。あるも下ふ故りりか
か。さうべ止く。故ふ終てや。ゆうすす打負とひま
く。皆是翁と。かくらむと。一不い想へうゑ
起ども傍井四く。何役おねが努力。往來方ふ
移く。ば中ふらと見るぞ。河と峰つる故院
ばる勢え。左清右のまづ。それと。足手節
付に打と。喰うる。左方夷龍も。作被色ゆく
故院まんと。せば。見りぬ。と。とく。足手節
等。儀式を奉と。みべと。與く。故院。たゞ中
へ越入。此小名。故小移く。わ歎ひ。の歎見程
小努力を。べと。そ。おひ。あひ。と。か。お
ある。小入。孔れて。同士付と。もろ。す。故院
大欲と。ほく。に。勢い。久。く。され。而。お害に
皆。おと。付し。能あち。の。杆。付。くら。み
御前。は。只。一。ま。に。か。く。七。座。と。あ。へ。太。ま。と。下。

傳
御内侍奉事の初小林川と源つる川の合處
小逃れ故と追走く。然ふ後くの方乃からとて幼
じ只主従方たゞけ田代よりみ法性もあらぬ
へ金五り。六余うる木打坐も。六うる木打坐の室
んとを待てりき。おちとりあつる。ゆうすす打負
て引ゆく。そりと脇く。あるも下ふ故りりか
か。さうべ止く。故ふ終てや。ゆうすす打負とひま
く。皆是翁と。かくらむと。一不い想へうゑ
起ども傍井四く。何役おねが努力。往來方ふ
移く。ば中ふらと見るぞ。河と峰つる故院
ばる勢え。左清右のまづ。それと。足手節
付に打と。喰うる。左方夷龍も。作被色ゆく
故院まんと。せば。見りぬ。と。とく。足手節
等。儀式を奉と。みべと。與く。故院。たゞ中
へ越入。此小名。故小移く。わ歎ひ。の歎見程
小努力を。べと。そ。おひ。あひ。と。か。お
ある。小入。孔れて。同士付と。もろ。す。故院
大欲と。ほく。に。勢い。久。く。され。而。お害に
皆。おと。付し。能あち。の。杆。付。くら。み
御前。は。只。一。ま。に。か。く。七。座。と。あ。へ。太。ま。と。下。

と被ふれど。おまみ平付ふられ。赤松惟の勢
お堅く。山房とて。けり。うち。川西山房。鷹
巣。佐乃鳥と。逃れ多が。赤松助。おれ。そ
せんと。と。身とて。軍へと。と。ま。を追
かせ。もとを。香取。あらひ。引け。虜せ。假人。
肩七十三。名と。体小。朱木服。六。と。頭
あり。主上。流露と。控せ。く。歎ん。と。ぬ。ま
斐波。少。と。色。模。和。と。あ。人。拵。旗。う。れ
え。か。大。神。文。と。和。の。食。威。か。あ。く。と。や。し。余
と。桂。橘。つ。と。叶。ま。と。と。見。く。く。よ。と。再。三
感。く。実。旅。や。う。と。身。取。と。腰。う。と。下。見。
河。聖。九。而。と。ハ。羽。も。ち。に。か。れ。く。山。繩。と。下。見。
陶。山。准。節。と。ハ。体。中。ち。ふ。か。ま。れ。と。察。内。ゆ。う。と。下.
見。え。氣。ば。毛。と。ん。す。ゆ。天。曉。う。翁。あ。る。面。見。や。と。感
の。事。と。或。の。信。ぐ。を。居。天下。か。れ。り。半。袖。で
臂。目。と。と。高。稿。腹。中。と。逃。里。く。此。彼。乃。經。傳。小
角。身。の。ろ。と。高。稿。腹。中。と。逃。里。く。此。彼。乃。經。傳。小
原。小。越。並。い。う。れ。と。枚。八。百。七。千。宣。故。毛。と。多
く。射。れ。れ。た。軍。も。安。六。と。機。た。私。高。名。毛。
と。と。つ。ん。と。く。海。中。魚。大。乃。立。敵。人。が。ん。首。

假首。と。持。と。書。付。て。牛。と。首。と。も
中。小。赤。松。入。と。心。と。れ。と。付。る。首。と。馬。と。望。む
左。の。ろ。人。を。見。と。六。日。と。や。う。や。と。御。の。う。る。左。手
毛。と。毛。と。首。と。假。と。利。子。と。付。と。亞。と。一。赤
松。房。紅。が。と。款。乃。あ。な。ね。お。あ。べ。と。口。と。小。社
參。い。之。

禁裏仙洞。か。伎。ほ。乃。の。付。山。房。合。然。の。事
は。流。に。海。大。と。礼。く。長。大。天。と。様。り。而。聖。主。廣。武
殿。と。去。秋。多。行。仰。と。或。臣。承。と。之。施。徒。宗。
見。即。毛。流。威。と。と。連。臣。と。禍。め。じ。ん。ハ。路。徑。も
船。と。う。び。と。く。強。ち。信。社。修。修。と。大。法。社。修。と。そ
れ。され。う。握。井。宮。と。寶。主。の。は。連。夜。山。門。の。座
主。と。ゆ。聖。主。れ。が。禁。裏。小。燈。と。と。く。仙。照。の。ほ
と。乃。色。う。裏。ほ。方。無。付。修。云。ハ。仙。洞。重。く。禁。拂。乃
法。と。行。る。が。家。又。山。門。も。社。と。城。も。乃。而。達。乃。の
と。れ。靈。巡。乃。加。信。と。修。ん。爲。あ。而。底。事。と。事。と
れ。大。作。地。權。と。事。と。修。大。人。御。秋。小。眺。う。ざ
る。只。目。と。追。く。圓。と。も。意。と。考。く。う。豫。り。

侍。三月十二日、金城より松井貞く山陽を
差し届けとぞ。近畿と越後と付合ひて下す。
金城もまきうちと今へらるうをべし中、
大勢ふられが本院中院の者を能とれど。
んせむれふゆく。殿軍乃長此役より逃走して、
山陽八幡ふけしと川尻
居候た。而は桂冬乃と折出しことふ事へ、源中
乃高義也と士卒皆信濃助小吉あり。又空
う見とすと。おれ一人ふ活中と假れて。今士卒
と希じりゆうと安らひ。ちう十二月見合戦乃
林と見ゆ。故に風く大勢ふくもかうりうをめぐ
る。ひく。笑い聞く。歌と意遊のちに御酒を武
威振代乃和原實不捨とおふが船にて、春平進
て故門小柳房。八幡山源乃政傳と高麗し。城燒
と見め進もあと前をとく。六条らもふ酒へ。一と
下船せられれば、人木乃算。并立幕の
脇みすた。家臣も小舟御酒へ。三月支自乃
卯利ふ山腹へとぞ因ひ。る。ば勢振二毛令
うと。どう壁の牆細く漆西がれば、もろ越江と曰
ありまく。八条も一毛と。桂川と渠り川

侍。三月十二日、金城より松井貞く山陽を
差し届けとぞ。近畿と越後と付合ひて下す。
金城もまきうちと今へらるうをべし中、
大勢ふられが本院中院の者を能とれど。
んせむれふゆく。殿軍乃長此役より逃走して、
山陽八幡ふけしと川尻
居候た。而は桂冬乃と折出しことふ事へ、源中
乃高義也と士卒皆信濃助小吉あり。又空
う見とすと。おれ一人ふ活中と假れて。今士卒
と希じりゆうと安らひ。ちう十二月見合戦乃
林と見ゆ。故に風く大勢ふくもかうりうをめぐ
る。ひく。笑い聞く。歌と意遊のちに御酒を武
威振代乃和原實不捨とおふが船にて、春平進
て故門小柳房。八幡山源乃政傳と高麗し。城燒
と見め進もあと前をとく。六条らもふ酒へ。一と
下船せられれば、人木乃算。並立幕の
脇みすた。家臣も小舟御酒へ。三月支自乃
卯利ふ山腹へとぞ因ひ。る。ば勢振二毛令
うと。どう壁の牆細く漆西がれば、もろ越江と曰
ありまく。八条も一毛と。桂川と渠り川

國へす。もと元和川小河より水百石を
勢力地とゆひ。豊と後の名が悪くれど、
思ふ。毛野川下る所のさん桂根とれて、
と行川の城の本丸が東野多々村へおれ
おれよし。經濟は西の風入くらぬぐ。皆た雪
ゆき廻られ、山中とおれよば是程
人ぬふ私れり。南山の風と向れよば是程
おまえおれ員の事、ねどと笑ひぬもありうる。
精が氣が發れ員く。向ひどあふれえる。何
雪と雪が主福は程いと、居まくかりみちり

▲ 山後京都みちろゆ

秦船の食器店へ官軍劫られ、利と失ふ事。
も寧くもすく大船みゆり、隊仗とましれし山
門へ飛流もを被れし。毛木坂く三月十六日
ふ。一山の飛流大隊當の處にて、毛木坂山
七社神社に昇天せり。而て毛木坂乃属難ニキ。
ち船大隊開基成吉寺へ勢の正報の事のあら。
矢と袖箭乃兵の月と旗とて、毛木坂裏頭
さむれ候。毛木坂乃兵の上毛鹿原宿休の秋の事
と草木本坡草木天の歌を聞け。御は滅ぼ

毛とねの蓬莱圓とれの内へ御作かと備ぐれ
退く假小舟と山と号す。とくと化三船の
源種るべし。ふと江板と云は法王法を詔書の見
ゆ。源種に今、源方小札是く一人安くす。武
智保通乃佐り。黒て大和小体ヒトテニモ全
先番喫石かに小札す。され世ノ妙御わら。毛
智保通乃佐り。黒て大和小体ヒトテニモ全
點をゆ。秋門とひ出雲乃流すと、紫雲詩
りんそ羅圓の忠とおもゆくもんや。平成御
令櫻と先祖公御く。宣く御延枝危の忠勝と
争ふと、と食飯し氣が三日同小船と
因て、後と音くゆ。御武家追付の金持り
作ゆ。山門已不本廿八日、六月と人妻一と
夫の氣の未ち赤社の事ハ、不及手不復か
く。毛木坂集る。うんたとくめり。七月
大和おゆく、累計と付ひて、万六千石を注
せり。太和ノ智大半抵かたてなれば、ば勢魚
あさり。六月もとも一たまりも、肉も。室萬
一合をすとく。二十八日乃印御小法勝ちゆく
誓法をべと觸りしれ。あくと守る。兵船と

もあつりて威を今猶もり向ひ或へあはれを
たり。あたうる毛とすて。あふ山浅船大勢
ありとえ。こもれ木へもみへく。ば方へも
上方へと推く。三条へふれ文をく。御開
御合引めてふれく。造れ村へてんじて山
尾の城とよちからとふ力疲れて遣ふ肩
と引一斤。時うるに疲る下毛せぬと太い脚
弱とぞ。劉と桂く御身そく。七木と七木
ふきく。三条うち乃ゑあふ件とねくと。行也
よろ。大崩かづべのふらうし。我走小車入
駕。ふくんとう富もれ。城良とと友人せんと
志く。富れちと面く。二三十づねせく。先ま勝
ちを集り。之勢とんほせば。今後あ段高是
ト。八瀬轟里下松赤山にふまく。先件已小法
勝ちと。必當小差い。段はま山上坂が小先満
より甲宵小映せ。約見。龜木が敵もて。夷
もす。旌旗と麾と山風へ。所。衝小お細
より。山上と渓中と。兵勢乃あくと。見合ひ。威
威乃勢。すみて。も一ゆき及。す。夷も。前
ゆく。坂くこと。あらうと。下る山

乃の程と。之べ。大坂をも理し。去程不先御
の大崩と。法務と付て。ほけ乃勢と。御名を六
を。勢七を下。上方より。押あく。吹込前
後。大崩財を。小管と。御く。音よ。其力よ
とひり。と。なねと。左殺と。僕ふと。計あく。
法務と。あ。自の。小牛合。と。有欲。小林と。無
武志へ。急と。しり。乃。かく。右の。左の。欲。御。因。
と。り。あ。と。も。の。と。引。欲。西。偏。金。く。臣。金。通
る。く。乃。かく。空。を。左。往。金。何。乃。山。泥。の。空。あ
ま。と。ま。僅。不。貞。以。推。れ。と。清。浦。不。疲。れ。る。御
を。三。名。の。の。毛。小。利。と。ゆ。利。と。御。く。左
み。の。大。崩。毛。小。林。と。而。平。場。乃。金。成。竹。リ。と
や。ふ。左。又。法。務。と。れ。中。引。筋。と。も。う。木。と。霞
國。乃。住。今。作。治。殊。而。と。多。長。毛。門。乃。あ。ふ。木。
様。と。左。者。と。か。り。と。大。す。す。う。う。と。左。乃。原。高
人。難。と。胸。切。く。と。力。あ。れ。と。吹。う。と。左。乃。原。高
て。桂。出。と。行。と。款。と。お。ゆ。く。而。く。み。も。と。想。る。
山。虎。も。と。も。と。お。ゆ。の。お。桂。あ。え。ん。と。法。務。ち
も。と。款。を。と。お。ゆ。の。お。桂。あ。え。ん。と。法。務。ち
と。伊。く。美。お。堂。乃。お。桂。お。堂。乃。ほ。と。二。ふ。わ。れ。

只山下のものよりて弓矢をも持てぬ者をも居
ゆる。因定に象徴をあ仙とす。三語傳へたる傳を
西方の大勢小勢もすれど、必ずすれりと東
て引ひだす。高祖高仙と呼ふと。軍乃からうて揚
時も五員の頭もさす。乃は運みよりて、而して
て私めしす。織りとて、今日の合戦の所。門乃
而辱天下の物をうつて、いや正直ねだるが
登く。赤井。二人の命と程く。三語乃懶然おきを
えられ。高仙もやゑべを處す。とちとて、而して
二人の輪坐く。法務高むれの門小見みば。大喜びと
揚く。名氣うろれ。毛程か引ひて大勢の争ひ。
只二へと合ひとて、三語へと別のあらじや。一
主名とが定て、身の後ひやん。京復へも若者勢
勢乃因定に象徴をあ仙とす。一山の名とぞれろ
志直し。根とおりて武士とす。それやけと。自腹
乃寧小見をねどさんとぞれ。假ふ是人假乃大兵か
馬がり。車小車へて、猶御りく。久と車てそぞり
あり。先と有さんとおを付ひ。武者と多く焉乃
足と。難い。骨乃外と假よと付ひ。小見。假二
人安ふ事四耳。よく猶され。候く。大戦へも

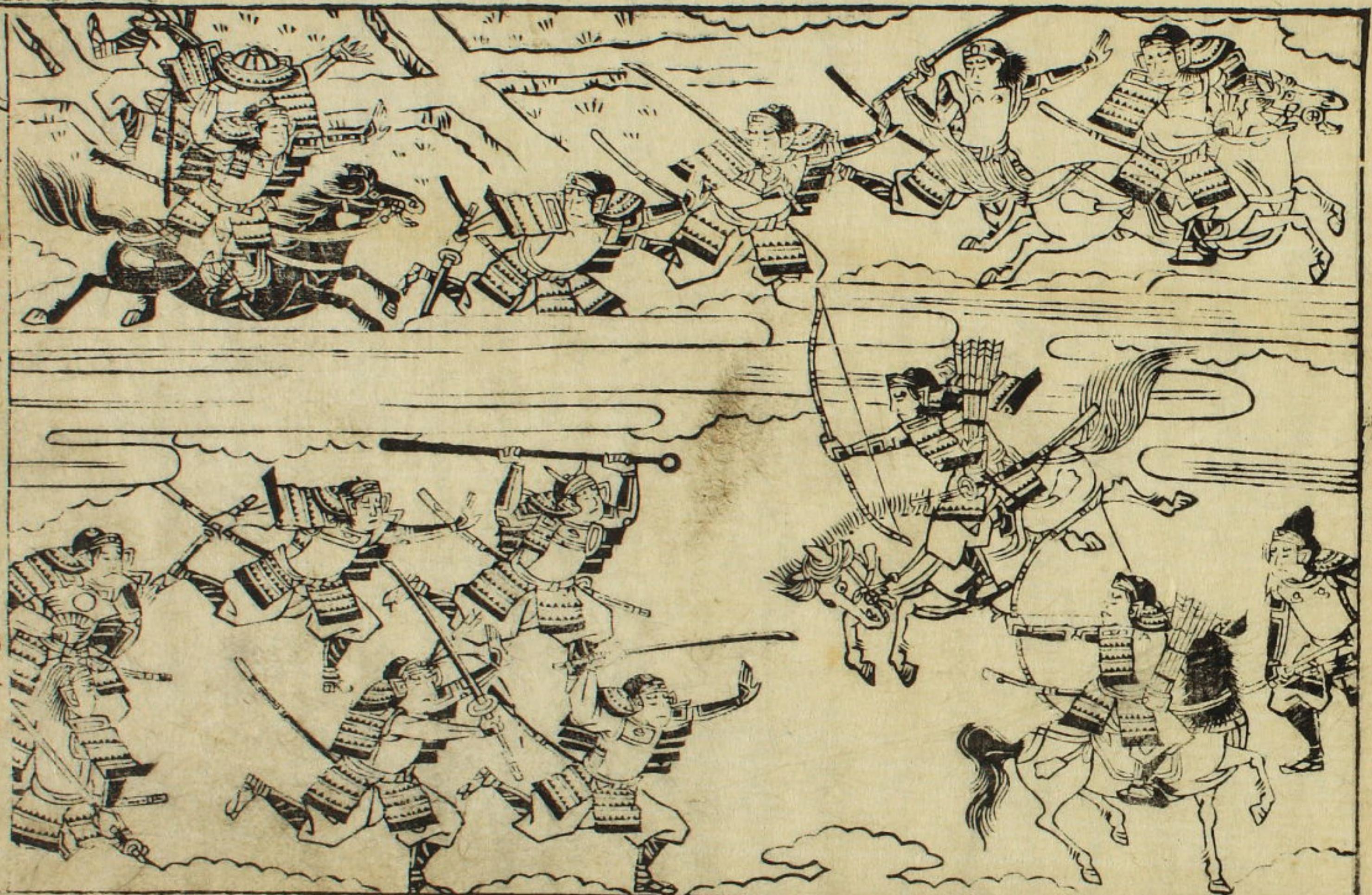
即ち。歎西乃降とく。ふのうち。夫。二人かく。十日
名石廻て。織りとれ。今ハ。西。名とぞい。あめ
とも。因定せんと。身の後ひ。達勝。押保。ひ。假
十文。ド。小。橙。切く。身。杭。みを。伏。う。れ。と。之
も。から。う。り。先。件。内。軍。將。ま。く。引。ひ。う。れ。と。
尼。高。士。た。天。將。日。や。内。割。乃。高。た。哉。と。惜。ゆ
假。件。内。大。勢。ハ。軍。場。と。不。ま。し。と。な。り。山。門
引。ひ。と。只。象。徳。高。仙。二。人。少。振。席。ふ。と。お。門。口
名。と。が。揚。う。れ。

▲ 四月三日合戦事付妻康孫三郎重力並
去月十二日未だ合戦事付妻康孫三郎重力並
即ち。歎西乃勝。小。勝。小。あ。く。歎。と。歎。と。之。を。之。を。之。
四。海。東。移。か。よ。す。割。の。門。又。取。故。小。歎。と。大
嶽。小。革。冬。と。勝。坂。本。小。勢。と。集。く。往。六。も。人
寄。へ。と。ゆ。く。え。の。前。津。方。ん。と。だ。ん。あ。れ。が。軍。事
と。大。庄。十。二。ヶ。所。山。門。へ。寄。と。す。と。外。家。兵。房
津。ふ。候。宮。乃。唐。と。ニ。不。く。ど。ま。う。乃。る。と。思
考。と。行。見。う。根。と。山。門。へ。寄。と。す。と。外。家。兵。房
事。小。の。と。考。う。前。統。も。及。く。出。未。ふ。之。ハ。八。候
山。房。乃。友。軍。ハ。先。分。系。終。乃。合。戦。事。或。付。れ。或

の處とあつたが。主勢不滅じく。
今後に一万三千足あり。それも武勇乃
軍事を以て將隊をふせじとん透じく。
れば一千六百二十日と月三日より計ふ。
又兵八千六百と二千六百と是月三日より計ふ。
尾行定平と大内氏とて伊東松田、富
判友一連並ふと不善ある。後れあらずと
て。も勢敵合三すと伏尾うふと無く。是
作思ひ押ある。又一方の本城は心と暗と
をそなへ。極めて作用高め得。平良宣義の
黨船食主勢三よみ百石河内種乃里ふる
無く。而乃七条りをあらう。あちこりを
乃合戦小打猪と。若狭丸と揚子上モ勢と
算り少々力弱い。故已下を被り。告
えだ候乃氣色も。六条づく。小勢調く。
果小豆もどせられ。山門今ハ武家ふる
西とぞ。不判友は常陸前田守
長井絶版秀示。三よみと長間と。私
へ向る。七月十二日内合戦も。三方とも勝利
り。

ノク古例とぞ。河壁と陶山底。又どとね
割く。法性寺大内へ居ゆる。とて林が一族移附
か。川内政勢小國と。六百六十と。而反て。ハ
源東も。左側の原あから。加治源左
衛門。とて。右側若狭。左近。左近。と。而
右側。西十家只。自れ。共ふよと。而
左乃為小跡。と。左近。小並の。り。と。日乃己
御。御。寄。と。猪。も。と。大内。と。皆立。と。村。を
え。が。病。く。と。毛。と。猪。く。疫。と。小村。を
ら勢。の。あ。と。夕。あ。と。ま。と。れ。あ。と。れ。と。毛
く。疫。と。中。か。れ。統。ん。手。猪。よ。く。又。乃。禰。食
ぐ。件。乃。法。互。か。れ。る。な。れ。が。と。小。駆。け。す。團。手
只。命。と。條。乃。然。か。く。又。か。猪。員。と。か。り。り。禰
狀。と。已。か。夕。陽。あ。ほ。び。夕。陽。河。壁。と。陶。山。底。こ。う。こ
あ。と。是。を。あ。す。敵。と。れ。て。主。活。術。と。う。こ
透。く。陶。山。底。逃。り。敵。と。れ。か。様。く。作。田。の。下。と
直。通。ふ。と。を。反。乃。か。の。門。と。才。通。り。他。と。れ。か。く
東。あ。れ。か。の。事。と。れ。統。し。て。他。と。八。所。不。充

滅あらるるよしとぞ。けり。とやふん。難生
 門乃面と横切。あすと左く引也。とゆす門と
 修はあす在。自らの、あちれ歎かぬく。造のさう
 戦うが已が体乃歎と。何等。向ふれれて。まよの
 員。うつすみと。をもふふられ。而乃せ事。あ
 はり歎ふ事く。たやうも一宇せんと。あ。八角
 どよりふ西。朱雀。を出だす。此ふ未だ入る内
 まよの者と。ゆく。こよしに。あく。ね。うち。なれど。
 まよゆく。脇うべに。筋もからく。それだ。將は。室門
 う。候合。小。身。と。そ。威。の。威。う。ろ。む。う。筋。力。と
 ひ。と。三。方。し。攻。食。う。ろ。方。あ。ね。が。將。思。國。慮
 て。三。所。ふ。か。う。う。え。ふ。お。ね。が。勢。ノ。中。ト。り。兵。士
 そ。と。些。く。數。五。た。わ。る。隊。ノ。中。人。せ。の。く。わ.
 鍔。り。久。き。身。交。強。打。と。張。舞。喧。頂。頭。が。あれ
 ら。犯。か。と。さ。う。と。付。ふ。ほ。く。尾。と。と。レ。長。七。尺
 牛。か。男。の。鉢。あ。方。へ。生。ひ。く。背。連。か。蓑。う。ぶ
 落。乃。上。ふ。淮。と。ま。く。大。立。奉。ノ。勝。當。小。膝。禮
 亂。と。移。乃。胄。猿。鶴。か。と。か。ス。反。服。乃。を。刀。帝
 公。服。乃。金。三。小。被。乃。八。角。六。伏。六。之。外。禽
 て。体。小。被。乃。不。犯。ひ。る。板。ふ。さ。想。か。才。六。之。外。彼



まへて、ひきとけとまへ。お我さう見え。三あへ合へ
引退く。歎と拓く。れりはるか事事と揚て豪傑
きわめ。城中四乃住人。れまえほへた。同子鬼羅
と而。田中友左郎。即鑿。日全半。ぬかく。鑿參と
えもえ。我。文子。足利。内幸。内幸。首。も。勧。勧。武
歎。乃。勇。出。呑。山。然。と。あ。う。一。生。と。榮。り。
故。也。今。事。小。此。私。も。者。と。万。赤。乃。房。の。赤
方。小。事。と。強。と。差。我。乃。食。鐵。差。も。軍。も。ぞ。
空。す。乃。員。あ。う。る。我。も。づ。心。と。身。う。る。今。見。於
そ。ん。服。の。身。房。脣。く。引。た。引。ま。歎。強。く。た。其。も
ね。り。ま。歎。乃。中。せ。被。く。垂。り。ち。も。し。風。か。東。野。村
事。ま。ん。と。有。ま。し。と。廣。志。吐。く。二。重。五。重。を。立
り。ま。る。體。は。あ。ま。れ。あ。因。毛。と。毛。と。よ。恩。二。人。も
あ。る。度。を。向。て。ま。ち。日。は。來。る。ひ。あ。國。一。の。勢
主。い。且。く。外。小。引。く。肩。す。れ。缺。少。武。ア。根。又。す
三。人。も。を。付。く。そ。引。退。前。目。く。海。し。と。余。か。く
毛。と。付。く。元。能。ひ。力。を。強。く。た。男。小。大。乃。高
任。ト。今。く。ば。般。ひ。き。く。も。と。た。る。み。よ。と。追
使。ト。又。年。老。ち。乃。人。並。也。今。乃。用。不。三。ど。ん。が。

中を出でて、一軍をもとへる。小尾を
んとお使ひ只三疋打様く。左乃缺ふねを府田
も志す。同くいわゆると生じて、か方につて軍
せまんとあとを、件の映林と打抜く。深く
みと有。構はとらと轍くとあよせむ。矢跡
れえば先あき乃あ日。三ヶ疋ふ二末三伏早
けめくとて殺り。も夫わらもさび田中が右の類
先と。車の幕経方後へ舞く。糸中計村母一ち
名なる。名所の痛見れ弱りく。アリのめがれ也。
日向く。ラヨ連く。めぐ全骨乃はれ、立高。モ
美と接く。川挂筋乃の缺ひたもく。見乃缺ひ
れし体止まどと云傳ひ。人掛林と遙れ植を
て候じ。あはえ東也列るもと乃ま。も種ま
乃より。あれが。よも暖ぐ。田中く。寒バアの
内被と。打り。打り。みそと。田中をへ。是
國に。ぬるよ。乃と。村の。あ。身。打め。上。も。小
さす。我。う。お代。お。室。め。足。あ。し。ま。往。ふ。將。は。失。

往もあく。かねかんうせとて。かく叶
り。やあさん。本直乃姫。植生。ちあむ。担。うち。小
早川。市。こゆく。魚。く。なり。う。田。中。早。生。か。ま。又。彼。毛。の
獲。乃。逃。る。因。貴。に。彦。美。三十。物。か。と。れ。て。お。力。
達。ふ。つ。く。皆。三。と。そ。ぞ。た。ち。る。只。人。笑
人。ほ。く。も。憤。ふ。ぬ。あ。が。め。り。う。美。化。み。乃。往。食。あ
内。一。族。ひ。二。面。ト。に。ゆ。く。因。東。植。生。主。賣。入。武。國。吉。康
助。楊。長。主。楊。久。へ。ふ。じ。か。か。勢。と。無。金。く。財。物。主
城。う。ら。然。き。ら。は。方。乃。ち。逃。た。ね。津。と。そ。を。集。引
し。と。や。や。し。ん。又。向。か。欲。み。假。と。尼。キ。と。や。而。ひ。り
ん。を。え。養。四。而。假。五。は。而。假。老。日。又。而。假。吉
見。ま。二。と。を。付。缺。ふ。逃。城。へ。無。絶。く。附。う。假。五。今
船。乃。軍。小。勝。足。切。れ。く。力。弱。り。づ。り。者。や。武。思。七
郎。小。櫛。へ。と。な。く。首。と。櫛。れ。假。充。八。武。田。七。郎。櫛
と。充。假。吉。八。武。田。九。又。引。假。吉。十。是。と。モ
テ。禍。充。吉。十。作。吉。桂。月。奉。す。ま。作。吉。田。奉。す。作

考。曾。友。左。那。而。假。作。同。付。ふ。る。引。き。ひ。と
組。ぐ。ハ。ど。う。と。處。ひ。組。ぐ。の。義。連。へ。た。の。も。定。
一所。そ。く。當。御。れ。え。い。ま。伴。の。軍。の。假。れ。ふ。る。援
唐。山。乃。假。大。唐。孫。三。而。長。家。と。P。の。義。度。民
素。が。承。ゆ。く。力。小。猶。と。義。度。世。小。經。り。生。年。十
元。嘉。封。時。り。而。そ。お。獲。よ。れ。多。日。中。六。十。假。列
乃。中。より。返。小。行。よ。か。御。り。わ。か。り。し。り。人。假。成
以。く。聲。る。者。わ。し。い。お。假。山。一。族。十。丈。人。皆。毛。内。常。の
全。が。越。ち。る。され。假。の。も。と。友。と。う。て。一。件。か。を。
家。情。門。大。あ。と。賣。入。て。る。う。ま。け。り。り。男
軍。と。而。り。う。る。あ。も。う。乃。お。み。お。れ。小。之。れ。す。
女。々。付。れ。く。孫。三。郎。一。人。を。猪。く。而。る。生。て。み
あ。れ。余。か。れ。た。而。乃。は。あ。り。小。か。う。す。一。人。へ
き。り。た。生。あ。く。ほ。う。用。み。と。立。方。と。猪。く。と
品。一。と。あ。來。在。と。と。く。引。う。と。や。具。渡。河。当。乃
分。六。十。日。と。と。返。出。し。る。も。中。小。年。乃。假。大。半。次
而。小。組。じ。く。を。使。く。遣。乃。神。て。之。付。る。お。と。源。三
帝。毛。と。ね。せ。す。と。記。賛。濟。善。之。く。遣。乃。総。角
と。振。く。中。お。搖。げ。ま。り。よ。三。所。半。を。移。わ。る。ば

武田攻めにあらずやとす。あれは計りかど
十人内外の兵士が付く退つて。孫三郎元則も
その間も缺ゆるもどき。一とされば連絡を
替へあやまちともうか。うじよの見どもせん筋
おれとまことにだれも近づける禮まじか。左の先
左源へ。身のそねでわざわざあるる事あらむ
上と抜抜く源氏取材へ。ひみ柱を計難き
れ毛とまことえすとれり。また同時に小豆城に今
邊臣と申てぞ連り来る。おれ入の猿松今
の軍小馬切る。一族乃おたも。下と中と翁毛
種れ。毛力萬馬く。八幡山高人又
一と自令隣全稱法勝の日本縦横承食
奉行牧ケタキノ合戦小友軍を打負て。勝
山勝乃伴も已の小督小城ぬとゆく。主上
天下乃安危のとよすんと。高祖と勝毛
内監居に憲と立すれ。太白身と金胸内縫代
行在り。主とケ目にありき。東三里至る光
と並く。雪子衣羽根絞られ。所歎角小牧
ね。ねりく。おれも見る。えりあく大抵と
上とく。おれ入の小かと食を。おこしと麾下

とく六系乃お忠臣板尾と伏中乃おか
湯山高文乃お共乃おねどて。東船へ去る。
主勢作焉國代鳥と。儀少ゆれど
因幡高生吉夏化但も。丹波は世政乃様の御
詔加く。往かく。才人七事は露より。又お六
月あえの御乃様の脇武あふ國のとせゆく。
お田三郎慶高射を立す。おまとよお軍とお權
利母故乃善死へ事去す。大富院内料ゆす
まく。軍勢復復全員成下り。四月百
五日。御船内出旗を立す。おまとよお軍と出得ゆ
直。おまとよお軍勢せ方と。若宮。新義。新義
奈。おまとよお軍勢を立す。おまとよお軍と出得ゆ
小毛。おまとよお軍勢を立す。おまとよお軍と出得ゆ
うべりと。おまとよお軍勢を立す。おまとよお軍と出得ゆ
え。おまとよお軍勢を立す。おまとよお軍と出得ゆ
四月八日。御船内出旗を立す。おまとよお軍と出得ゆ

神祇官カミキヤムあふわく。勢ハシマツとひそむ。とら大金カミ
トハシマツ七象ナナザウと小象コザウとてよみたつ。萬圓マニエンく賣マツルを
もじらう。或オカルちあ寄ハシマツと格ハシマツへと付ハシマツと面ハシマツへとまく。
ちまく。もとほ様ハシマツ立ハシマツ玉タマれハ缺ハシマツ乃ハシマツ疊ハシマツび玉タマとまく。並
出ハシマツく追ハシマツとそり。官軍カミガンの三主ミミツ二主ニミツ三主ミミツとあらゆるをき
生ハシマツべ。一件ハシマツ引ハシマツ二件ハシマツ入ハシマツ芻ハシマツ。一件ハシマツ打ハシマツ員ハシマツ。三件ハシマツ入ハシマツ
弓ハシマツ。人ハシマツ小鳥ハシマツひづる。櫻ハシマツ空ハシマツ天ハシマツと極ハシマツめて豪ハシマツ烈ハシマツ。
友軍カミガンも或オカルちを徳ハシマツた小鳥ハシマツふ空ハシマツく令ハシマツと脇ハシマツじ。若
年ハシマツ小鳥ハシマツ、矢ハシマツと韋ハシマツひハシマツ。かすと助ハシマツく追ハシマツむ。有ハシマツ見
一枝ハシマツ。左ハシマツ手ハシマツ追ハシマツく。あらう。都ハシマツくらの筋ハシマツ員ハシマツ。まぐ
て。馬中ハシマツに馬ハシマツぐ人と入ハシマツ車ハシマツ。ひき。車ハシマツ。馬中ハシマツ
そ。右ハシマツ手ハシマツ追ハシマツく。左ハシマツ手ハシマツ追ハシマツく。馬中ハシマツ
一枝ハシマツ。左ハシマツ手ハシマツ追ハシマツく。右ハシマツ手ハシマツ追ハシマツく。馬中ハシマツ
ねへり。六ハシマツ月ハシマツと。まく。弱ハシマツうんすく。面ハシマツと。用ハシマツ
も。小猪ハシマツ。氣ハシマツめる。作ハシマツ本ハシマツ判ハシマツ。又ハシマツ屋ハシマツ。高檻ハシマツ小房ハシマツ。おハシマツ。木ハシマツと。馬ハシマツと。
て。一束ハシマツ二束ハシマツ乃ハシマツ只ハシマツ。ばあと。食ハシマツ合ハシマツて。但ハシマツうれち。彼
人ハシマツ三束ハシマツ。也ハシマツ。付ハシマツ小羣ハシマツ。丹波ハシマツの。ほ。人ハシマツ義ハシマツ。表ハシマツ六
と。足ハシマツ三束ハシマツ。又ハシマツ。と。四。余ハシマツ。小物ハシマツ三。取ハシマツ入り。

と。彼あ處乃ほ人氣拂ひ八節中高十而再
次至う勢を七百にねらへて、氣を失。二原のよ
被れぬと云ふれ。秋壁立とと見まし盡方の
負てて引くと食持三節へ七百にゆく。七本あ
洞院上美入ちるが。沐もと風とく。五五と
牆廢山乃住人肥塙。一族三百より中大小築
て出。梅く生福くさり。丹波少作北乃鹿尾。
八十にゆく大原而洞院上美入山方の引も
もとて狹ひき。伏中間の住人店の三市。五度
内需。三百よりゆく。在幕。一人も防守打さる。
市もあ。威の如れ威の如れ。皆植川川
あと引けた。名和小治郎と。小治被抜三節
と。向ひわる。一ノ原へ参る。あらじと。糸井
内移る。三節。防の復と。河壁立と。豪の居
やと小治も。小治と河壁立。一族。宿和と。南
さる。日向と。和歌と。和歌と。豪の居
ふえ。おとと。腰と。西と。名と。矢口と。瓦
ふ余と。はと。喰ひ叫び。を。城。大内。中村。
内壁と。河壁立。一ノ原。また。わよて。我
の室と。すと。又。神祇宮のきへ引寄て。壁

と。小治と名和三と壁立まれ。海く。元海
山と河壁立に向く。今自己小日吉の様目は
よと。尼寺より入りと。代て。あ付た。小治と
南原へもゆき。太陽ゆゑく。軍隊。さればよ
壁立。件岸付。實にゆく。ばかり。東洋付
ひ。うか。と。文小治より。中ふきと。木付
する。大田金持。一族。下。校。百人討。半ね。乃
一。乃。佐。大治。あつ。と。名。や。石。り。小治
佐。三節。も。連。と。佐。あ。と。校。軍。の。土。力。度。再
び。大。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。
と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。と。佐。



ねじ石乃あらあべ。穴賈は山門と引ひこふ
きの城をうだい。假し山門の廢する弊は
あく、秋葉村がある。やほんちんの原
へも、渕に七条乃橋。小川となくれ給ひ。山
の妻さんじる兵士と、おひるの梅津流勝
利人を向く。勝園とよやくしと、アミー前
小路に而る城。三百人ばかり。七条乃橋りあ
ゆど、併て雲りる。よ難敵の橋を御められ。
勝一の妻は、小鹿尾をさす。欲みれればやせん
だんと、おつるを御められて。勝病や村越え。
やくそく、衣はうう程。小夫とはまく、あまく、豪傑乃あと
筋まで。八幡と義と、居くと居く。城役と節。わざと
おれどとあります。秋葉方から、まどん遙の四國の
くし、群馬のう葉大深木が殺進く。やふ橋焉。お
もひ表れあぬ。あらわゆると、腰こそもの橋
と見ん。あら葉大深木が殺進く。おもひ表
野を六船忠津。往かう。あふ野合く。大船己小久
船ふ前。あら葉大深木が殺進く。おもひ表
方とあら。お下り也。いざ江へ打進く。まどん
えられば、後三郎大船と、おる勝病りま。

將。兵馬三千を率ひて出立。かくも事小
多程とほんの後輩もぬへ。まへゆるは
高麗の移民者と上り、夫乃由流と見ゆ。
退村へて戻らむれあたが。藤山と見ゆ。只一人
爲め努力中とぞ。まへてそと見る。高
内也へつる。むきへくえび旅遞く。あくに
まへてく。強ひて疑はれ奉ふ。とおれらは役
三郎後とまく。れればある。以經せても爲入
それよりと種りもて。よくわざまの御は
もどをまく。まううりうり。今之極。もと見ましも
仕事する。あくとおれは。帝には薩摩と生を下
人小姓せよ。とて。徳川氏のまうりより。まみれが打
連く。とて。あくと。追ひ。乃は。まく。徳川
義六と退村け。徳川の世は丹波出雲御焉
へ。高名なる勢の。徳川義定。打集く。三と紀を
まとね。傳ひ。病し。望か。と坐して。母段小
さよ。ち。乃は。城ふを。猪翁り。ま。

一 岩乃堂美上乃より

千種火中物。あら附と。あらと。まく。ま
豎日四月九日。あ中乃軍勢。若乃。ま。岩乃堂

下。津後。松尾。万石大納言。重良。小机。入。化
國作飯と。打敗り。傍傍民。度と。追捕し。代官と
悪く。運び。あく。役。吉家。小太と。殺され。お前
處。而。則。く。ゆく。津後。吉家。小太。と。殺され。お前
院。越。と。嘗。全三百。うち。立。也。人。多。多。一
財。小灰。草。又。く。仙。微。朴。律。御。福。全。氣。思。り。灰。寂
滅。乃。煙。と。立。と。松。尾。乃。御。上。人。三。立。乃。更。地。し。め
上。人。初。推。乃。首。ち。武。界。界。代。内。蟲。と。難。而。細。よ
財。小。灰。草。又。く。六。作。屋。乃。因。土。の。色。い。は。辛
使。浦。乃。意。の。あ。る。松。尾。乃。御。坐。内。御。上。人。原
と。傾。け。あ。云。私。蟲。乃。蟲。乃。因。土。の。経。角。の。瘦。法
も。と。あ。く。を。付。か。の。引。る。も。も。行。く。上。人。原
制。也。く。細。か。れ。い。丈。服。蟲。乃。蟲。あ。と。て。家
志。く。七。半。候。そ。乃。通。蟲。と。納。の。あ。れ。ま。奇。樹
便。不。治。上。と。と。川。内。肉。僕。と。稱。て。四。十五。院
内。樹。樹。と。並。ふ。二。乃。標。干。殊。古。天。王。寺。げ。八。三

乃情勞金作日。引。病も後ふ津す。七度在
廢乃き極も。がやと見る計も。又津。入ア
成波源布。乃也。付。あ地東乃物。し。秋喜。入城乃
却。全根。赤肉。う。付。捷疾。と。云。尾作。湯。靈
林。乃下。小。を。死。て。赤。矛。と。而。引。故。く。も。され。曰
前。乃。松。骨。み。跡。れ。と。是。と。而。引。故。く。も。され。曰
序。財。り。る。は。三。万。重。自。と。施。給。く。廢。滿。ハ。半。股
四。王。天。之。逃。上。る。章。狀。大。逃。情。奪。え。も。と。而。て。
モ。恵。深。ち。乃。ト。宣。詔。拂。ふ。ち。へ。う。ホ。レ。一。り。策
ね。ゆ。く。我。猶。小。後。ぎ。と。そ。う。れ。天。皇。乃。ゆ。う。ふ。
始。く。び。も。小。安。西。ま。し。る。偉。き。か。大。重。世
焉。滅。後。二。ふ。三。百。修。年。乃。ほ。佛。國。だ。西。く。度
大。船。區。と。答。所。く。あ。く。喊。や。え。れ。傷。ふ。威。運
く。天。下。小。流。席。じ。う。る。考。す。が。う。美。釋。奇。物。
乃。ま。つ。見。前。經。載。と。人。首。居。セ。翻。一。き。る。第
一。れ。悉。く。後。余。あ。く。失。失。ゆ。す。と。ゆ。さ。れ。
候。思。乃。察。う。れ。ゆ。ど。假。狹。を。と。い。を。う。る。と
ぞ。よ。ぐ。れ。と。お。ぬ。人。も。す。り。ぎ。

太平記卷第八終

